

学校コード F108110101414

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

**事前伺い**

注2

茨城大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻 (P)

## 【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人茨城大学  
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局 (課) 名 総務部総務課

職名・氏名 ホウキカカリチヨウリエトシユキ  
法規係長 堀江利行

電話番号 029-228-8009

(夜間) 029-228-8035

e-mail iba-houki@ml.ibaraki.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

## 教育学研究科

＜教育実践高度化専攻（P）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	22
6. 附帯事項等に対する履行状況等	64
7. その他全般的事項	66

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人

## (2) 大学名 茨城大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒310-8512  
茨城県水戸市文京2丁目1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	( 材 タ ヒロキ ) 太田寛行 (令和2年4月)		
研究科長	( アヲ カ サシ ) 荒川智 (平成30年4月)	( ノ ガキ ヒデアキ ) 野崎英明 (令和4年4月)	任期満了による交代 令和4年4月1日(4)
専攻長	( ミ リ シュウジ ) 三輪壽二 (令和3年4月)	( ショウジ ヒロアキ ) 勝二博亮 (令和4年4月)	任期満了による交代 令和4年4月1日(4)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)  
令和4年度に報告する内容 → (4)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
  - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
  - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学研究科 教育実践高度化 専攻 教職修士（専門職）	教育学・保育学 関係	2 年	43 人	— 人	86 人		教育学部 14条特例実施 教職大学院

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	43人 (—) [—]	0人 (—) [—]	43人 (—) [—]	0人 (—) [—]	0.92倍	一倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	42 (—) [—]	— (—) [—]	48 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	42 (—) [—]	— (—) [—]	48 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	42 (—) [—]	— (—) [—]	47 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	40 (—) [—]	— (—) [—]	39 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A							93%		91%				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	40 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	39 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )			
2年次	/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	40 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )			
3年次			/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )		
4年次					/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )
計			— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )			— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	40 [ — ] ( — )	79 [ — ] ( — )			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	40人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	79人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合計		0人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{40} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{79} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<大学院教育学研究科 教育実践高度化専攻(P)>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	カリキュラム・マネジメントの理論と実践 I	1前	1			1						1	
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践 II	1前	1			3	2					10	
	ICT活用とプログラミング	1前		2			1					1	
	子ども理解にもとづく学習指導	1前		2			2						
	授業研究の方法と実践	1前		2			1	1					
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(言語・社会・生活科学系)	1前		2								4	
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(自然・科学技術系)	1前		2				1				2	
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(芸術・スポーツ系)	1前		2			1					2	
	特別支援教育の自立活動の授業づくり	1前		2			1						
	心とからだの発達と保健	1前		2								3	
	発達障害児の理解と支援	1前	2									2	
	教育相談の課題と支援	1後		2			1	1					
	子どもの健康と生徒指導	1後		2			2					1	
	特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	1前		2								1	
	インクルーシブ教育の学校づくり	1後		2								1	
	学校マネジメント実践演習	1後		2			2						
	学級経営実践演習	1前		2			1	1					
	学級力を高めるコミュニケーション	1前		2			1					1	
	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	1前	2				2					1	
	教師のライフステージと資質向上	1前		2			1					1	
	学校における多様性の受容と活用	1後		2			1					2	
	小計(21科目)		-	6	34	0	13	4	0	0	0	27	
	共通科目	校内研修の企画・立案と実践	1後		2			3	2				3
		教育測定(評価)と校内研修	1後		2			1					1
小計(2科目)		-	0	4	0	3	3	0	0	0	4		
専門科目	教育政策の実施と評価	1前		2		1	1						
	教育行財政と法規	1後		2		1	1						
	スクール・リーダーシップとその実践	1前		2		2							
	学校危機管理理論と実践演習	1後		2		1	1						
	学校における評価マネジメント実践演習	1後		2		2							
	学校運営課題研究 I	1前		1		3	1						
	学校運営課題研究 II	1後		1		3	1						
	学校運営課題研究 III	2前		1		3	1						
	学校運営課題研究 IV	2後		1		3	1						
	学校運営実践研究 I	1通		1		3	1						
	学校運営実践研究 II	2通		1		3	1						
	教材研究と授業設計	1前		2		1						1	
	人間形成の現代的課題と学習指導	1前		2		2							
	授業研究による授業改善	1後		2		1	1						
	教育方法開発課題研究 I	1前		1		2	1		1				
	教育方法開発課題研究 II	1後		1		2	1		1				
	教育方法開発課題研究 III	2前		1		2	1		1				
	教育方法開発課題研究 IV	2後		1		2	1		1				
	教育方法開発実践研究 I	1通		1		2	1		1				
	教育方法開発実践研究 II	2通		1		2	1		1				
	学校不適応問題への理解と対応	1後		2		1	1						
	学級経営と個別指導の実践	1前		2			2						
	学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法	1前		2		1	1						
	児童生徒支援課題研究 I	1前		1		2	2						
	児童生徒支援課題研究 II	1後		1		2	2						
児童生徒支援課題研究 III	2前		1		2	2							
児童生徒支援課題研究 IV	2後		1		2	2							
児童生徒支援実践研究 I	1通		1		2	2							
児童生徒支援実践研究 II	2通		1		2	2							

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	カリキュラム・マネジメントの理論と実践 I	1前	1			1						1	
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践 II	1前	1				4	1				10	
	ICT活用とプログラミング	1前		2			1					1	
	子ども理解にもとづく学習指導	1前		2			2						
	授業研究の方法と実践	1前		2			1	1					
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(言語・社会・生活科学系)	1前		2								4	
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(自然・科学技術系)	1前		2				1				2	
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(芸術・スポーツ系)	1前		2			1					2	
	特別支援教育の自立活動の授業づくり	1前		2			1						
	心とからだの発達と保健	1前		2								3	
	発達障害児の理解と支援	1前	2									2	
	教育相談の課題と支援	1後		2			1	1					
	子どもの健康と生徒指導	1後		2			2					1	
	特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	1前		2								1	
	インクルーシブ教育の学校づくり	1後		2								1	
	学校マネジメント実践演習	1後		2			2						
	学級経営実践演習	1前		2			1	1					
	学級力を高めるコミュニケーション	1前		2			1					1	
	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	1前	2				2					1	
	教師のライフステージと資質向上	1前		2			1					1	
	学校における多様性の受容と活用	1後		2			1					2	
	小計(21科目)		-	6	34	0	14	3	0	0	0	27	
	共通科目	校内研修の企画・立案と実践	1後		2			3	1		1		3
		教育測定(評価)と校内研修	1後		2			1					1
小計(2科目)		-	0	4	0	4	1	0	1	0	4		
専門科目	教育政策の実施と評価	1前		2		1						1	
	教育行財政と法規	1後		2		1						1	
	スクール・リーダーシップとその実践	1前		2		2							
	学校危機管理理論と実践演習	1後		2		1						1	
	学校における評価マネジメント実践演習	1後		2		2							
	学校運営課題研究 I	1前		1		3						1	
	学校運営課題研究 II	1後		1		3						1	
	学校運営課題研究 III	2前		1		3						1	
	学校運営課題研究 IV	2後		1		3						1	
	学校運営実践研究 I	1通		1		3						1	
	学校運営実践研究 II	2通		1		3						1	
	教材研究と授業設計	1前		2		1						1	
	人間形成の現代的課題と学習指導	1前		2		2							
	授業研究による授業改善	1後		2		1	1						
	教育方法開発課題研究 I	1前		1		2	1		1				
	教育方法開発課題研究 II	1後		1		2	1		1				
	教育方法開発課題研究 III	2前		1		2	1		1				
	教育方法開発課題研究 IV	2後		1		2	1		1				
	教育方法開発実践研究 I	1通		1		2	1		1				
	教育方法開発実践研究 II	2通		1		2	1		1				
	学校不適応問題への理解と対応	1後		2		1	1						
	学級経営と個別指導の実践	1前		2			1					1	
	学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法	1前		2		1	1						
	児童生徒支援課題研究 I	1前		1		2	1						
	児童生徒支援課題研究 II	1後		1		2	1						
児童生徒支援課題研究 III	2前		1		2	1							
児童生徒支援課題研究 IV	2後		1		2	1							
児童生徒支援実践研究 I	1通		1		2	1							
児童生徒支援実践研究 II	2通		1		2	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
専門科目	国語科内容総合研究	1前		2		1				3
	国語科科目研究(国語学・書写書道)	1後		2						3
	国語科科目研究(国文学・漢文学)	1後		2		1				2
	国語科総合演習Ⅰ	1通		2		1				4
	国語科総合演習Ⅱ	2通		2		1				4
	社会科内容総合研究	1前		2		1				5
	社会科科目研究(歴史)	1前		2		1				2
	社会科科目研究(地理)	1後		2						2
	社会科科目研究(社会と人間)	1前		2						2
	社会科科目研究(法律と政治)	1後		2						2
	社会科総合演習ⅠA	1通		2		1				3
	社会科総合演習ⅠB	1通		2						2
	社会科総合演習ⅡA	2通		2		1				3
	社会科総合演習ⅡB	2通		2						2
	算数科内容総合研究	1前		2				1		5
	数学科科目研究(代数学・幾何学)	1後		2				1		2
	数学科科目研究(解析学・統計学)	1後		2						3
	数学科総合演習Ⅰ	1通		2				1		5
	数学科総合演習Ⅱ	2通		2				1		5
	理科内容総合研究	1前		2			1			7
	理科学科目研究(エネルギー・粒子)	1前		2			1			3
	理科学科目研究(生命・地球)	1後		2			1			4
	理科総合演習Ⅰ	1通		2			1			7
	理科総合演習Ⅱ	2通		2			1			7
	音楽科内容総合研究	1後		2			1			5
	音楽科科目研究(表現)	1後		2			1			2
	音楽科科目研究(鑑賞)	1前		2						3
	音楽科総合演習Ⅰ	1通		2			1			5
	音楽科総合演習Ⅱ	2通		2			1			5
	図画工作科内容総合研究	1後		2			1			5
	美術科科目研究(絵画・彫刻)	1前		2			1			3
	美術科科目研究(デザイン・工芸)	1後		2						4
	美術科総合演習Ⅰ	1通		2			1			6
	美術科総合演習Ⅱ	2通		2			1			6
	体育科内容総合研究	1後		2			1			7
	保健体育科科目研究(保健・体育学)	1前		2			1			3
	保健体育科科目研究(運動学)	1後		2			1			5
	保健体育科総合演習Ⅰ	1通		2			1			7
	保健体育科総合演習Ⅱ	2通		2			1			7
	技術科内容総合研究	1前		2			1			5
	技術科科目研究(材料と加工・生物育成)	1後		2			1			3
	技術科科目研究(エネルギー変換・情報)	1前		2						3
	技術科総合演習Ⅰ	1通		2			1			5
	技術科総合演習Ⅱ	2通		2			1			5
	家庭科内容総合研究	1前		2			1			5
	家庭科科目研究(人間生活分野)	1後		2			1			2
	家庭科科目研究(生活環境分野)	1前		2						3
家庭科総合演習Ⅰ	1通		2			1			5	
家庭科総合演習Ⅱ	2通		2			1			5	
英語科内容総合研究	1後		2						2	
英語科科目研究(英語学)	1後		2						2	
英語科科目研究(英語文学)	1後		2			1			2	
英語科総合演習Ⅰ	1通		2			1			4	
英語科総合演習Ⅱ	2通		2			1			4	
特別支援学校の教材開発	1前		2			1				
特別支援学校の授業づくり	1前		2			1				
感覚障害児のアセスメントと支援	1後		2						1	
知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ	1前		2						1	
知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ	1前		2						1	
障害児の生理機能評価と支援	1後		2			1				
特別支援教育課題発見演習	1後		2			2			4	
特別支援教育課題分析演習	2前		2			2			4	
特別支援教育課題解決演習	2後		2			2			4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
専門科目	国語科内容総合研究	1前		2		1				3
	国語科科目研究(国語学・書写書道)	1後		2						3
	国語科科目研究(国文学・漢文学)	1後		2		1				2
	国語科総合演習Ⅰ	1通		2		1				4
	国語科総合演習Ⅱ	2通		2		1				4
	社会科内容総合研究	1前		2		1				4
	社会科科目研究(歴史)	1前		2		1				2
	社会科科目研究(地理)	1後		2						1
	社会科科目研究(社会と人間)	1前		2						2
	社会科科目研究(法律と政治)	1後		2						2
	社会科総合演習ⅠA	1通		2		1				2
	社会科総合演習ⅠB	1通		2						2
	社会科総合演習ⅡA	2通		2		1				2
	社会科総合演習ⅡB	2通		2						2
	算数科内容総合研究	1前		2					1	5
	数学科科目研究(代数学・幾何学)	1後		2					1	2
	数学科科目研究(解析学・統計学)	1後		2						3
	数学科総合演習Ⅰ	1通		2					1	5
	数学科総合演習Ⅱ	2通		2					1	5
	理科内容総合研究	1前		2			1			7
	理科学科目研究(エネルギー・粒子)	1前		2			1			3
	理科学科目研究(生命・地球)	1後		2			1			4
	理科総合演習Ⅰ	1通		2			1			7
	理科総合演習Ⅱ	2通		2			1			7
	音楽科内容総合研究	1後		2			1			3
	音楽科科目研究(表現)	1後		2			1			2
	音楽科科目研究(鑑賞)	1前		2						2
	音楽科総合演習Ⅰ	1通		2			1			3
	音楽科総合演習Ⅱ	2通		2			1			3
	図画工作科内容総合研究	1後		2			1			5
	美術科科目研究(絵画・彫刻)	1前		2			1			3
	美術科科目研究(デザイン・工芸)	1後		2						4
	美術科総合演習Ⅰ	1通		2			1			6
	美術科総合演習Ⅱ	2通		2			1			6
	体育科内容総合研究	1後		2			1			7
	保健体育科科目研究(保健・体育学)	1前		2			1			3
	保健体育科科目研究(運動学)	1後		2			1			5
	保健体育科総合演習Ⅰ	1通		2			1			7
	保健体育科総合演習Ⅱ	2通		2			1			7
	技術科内容総合研究	1前		2			1			5
	技術科科目研究(材料と加工・生物育成)	1後		2			1			3
	技術科科目研究(エネルギー変換・情報)	1前		2						3
	技術科総合演習Ⅰ	1通		2			1			5
	技術科総合演習Ⅱ	2通		2			1			5
	家庭科内容総合研究	1前		2			1			5
	家庭科科目研究(人間生活分野)	1後		2			1			2
	家庭科科目研究(生活環境分野)	1前		2						3
家庭科総合演習Ⅰ	1通		2			1			5	
家庭科総合演習Ⅱ	2通		2			1			5	
英語科内容総合研究	1後		2			1			3	
英語科科目研究(英語学)	1後		2						2	
英語科科目研究(英語文学)	1後		2			1			2	
英語科総合演習Ⅰ	1通		2			1			3	
英語科総合演習Ⅱ	2通		2			1			3	
特別支援学校の教材開発	1前		2			1				
特別支援学校の授業づくり	1前		2			1				
感覚障害児のアセスメントと支援	1後		2						1	
知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ	1前		2						1	
知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ	1前		2						1	
障害児の生理機能評価と支援	1後		2			1				
特別支援教育課題発見演習	1後		2			2			4	
特別支援教育課題分析演習	2前		2			2			4	
特別支援教育課題解決演習	2後		2			2			4	
特別支援教育総合演習	1前		2			2			4	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	コース別科目	健康科学と社会創造	1後	2		2					
		学校における医学・看護学	1後	2							2
		養護活動と健康増進科学	1後	2							2
		臨床医学特論	1後	2							2
		養護科学課題発見演習	1後	2		2					6
		養護科学課題分析演習	2前	2		2					6
		養護科学課題解決演習	2後	2		2					6
	小計(99科目)	-	0	180	0	16	8	0	2	0	64
	コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	1前	2			1				1
		学習指導・学習評価の課題と方法	1前	2			1				1
		教育カウンセリング実践と事例研究	1後	2			1				1
		教育臨床問題と道徳	1後	2			1		1		
		子ども理解と学習支援	1後	2		4	3		1		
		ことばの諸相と教育	1後	2		1					2
		近代化と現代の生活問題	1後	2							3
		芸術の言葉	1前	2							2
		社会の数理	1後	2			1				1
		自然現象の数理	1後	2							4
		あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	1前	2			1	1			2
時間と空間の表現世界		1前	2							4	
読み・書き・計算のつまずきと支援	1前	2							3		
動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	1前	2			1				3		
茨城に学ぶ-地域における教員の在り方-I	1後	2			1	1			4		
茨城に学ぶ-地域における教員の在り方-II	1後	2			1	1			4		
防災を含む安全に関する教育	1後	2				1			4		
持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ	1後	2							5		
課題探索演習	1通	2			7	4		1			
小計(19科目)	-	0	38	0	12	8	0	2	0	35	
実習科目	コース別実習	学校運営実習 I	1後	3		3	1				
		学校運営実習 II	2通	5		3	1				
		教育方法開発実習 I	1後	3		2	1		1		
		教育方法開発実習 II	2通	5		2	1		1		
		児童生徒支援実習	1後	3		2	2				
		学校適応アセスメント実習	2前	3		2	2				
		学校適応支援実習	2後	2		2	2				
		教科領域実習I	1後	3		5	4		1		52
		教科領域実習 II	2前	3		5	4		1		52
		教科領域実習 III	2通	5		5	4		1		52
		特別支援教育教材開発実習 I	1前	1		2					4
		特別支援教育教材開発実習 II	2前	1		2					4
		特別支援教育アセスメント実習 I	1後	1		2					4
		特別支援教育アセスメント実習 II	2後	1		2					4
	特別支援教育ケースカンファレンス実習 I	1前	1		2					4	
	特別支援教育ケースカンファレンス実習 II	2前	1		2					4	
	特別支援教育授業改善実習	2通	5		2					4	
	養護科学実習 I	1通	2		2					4	
	養護科学実習 II	2通	4		2					4	
	養護科学実習 III	2通	4		2					4	
	養護科学実習 IV	1後	2		2					6	
小計(21科目)	-	0	58	0	16	8	0	2	0	62	
コース間融合実習	課題発見実習(学校運営コース)	1前	2		7	4		1		3	
	課題発見実習(教育方法開発コース)	1前	2		7	4		1		3	
	課題発見実習(児童生徒支援コース)	1前	2		7	4		1		3	
	教材開発実習 I A(教科領域コース)	1前	1		5	4		1		52	
	教材開発実習 I A(特別支援科学コース)	1前	1		2					4	
	教材開発実習 I A(養護科学コース)	1前	1		2					6	
	教材開発実習 II A(教科領域コース)	2前	1		5	4		1		52	
	教材開発実習 II A(特別支援科学コース)	2前	1		2					4	
教材開発実習 I B(教科領域コース)	1通	1		5	4		1		52		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	コース別科目	健康科学と社会創造	1後	2		2					
		学校における医学・看護学	1後	2							2
		養護活動と健康増進科学	1後	2							2
		臨床医学特論	1後	2							2
		養護科学課題発見演習	1後	2		2					6
		養護科学課題分析演習	2前	2		2					6
		養護科学課題解決演習	2後	2		2					6
	小計(100科目)	-	0	182	0	17	5	0	3	0	61
	コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	1前	2						1	1
		学習指導・学習評価の課題と方法	1前	2			1				1
		教育カウンセリング実践と事例研究	1後	2							2
		教育臨床問題と道徳	1後	2			1		1		
		子ども理解と学習支援	1後	2		4	2		1		1
		ことばの諸相と教育	1後	2		1					2
		近代化と現代の生活問題	1後	2							3
		芸術の言葉(未開講)	1前	2							2
		社会の数理	1後	2			1				1
		自然現象の数理	1後	2							4
		あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	1前	2			1	1			2
時間と空間の表現世界		1前	2							4	
読み・書き・計算のつまずきと支援	1前	2							3		
動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	1前	2			1				3		
茨城に学ぶ-地域における教員の在り方-I	1後	2			1	1			4		
茨城に学ぶ-地域における教員の在り方-II	1後	2			1	1			4		
防災を含む安全に関する教育	1後	2				1			4		
持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ	1後	2							5		
課題探索演習	1通	2			8	3		1			
小計(19科目)	-	0	38	0	13	5	0	3	0	38	
実習科目	コース別実習	学校運営実習 I	1後	3		3				1	
		学校運営実習 II	2通	5		3				1	
		教育方法開発実習 I	1後	3		2	1		1		
		教育方法開発実習 II	2通	5		2	1		1		
		児童生徒支援実習	1後	3		2	1				
		学校適応アセスメント実習	2前	3		2	1				
		学校適応支援実習	2後	2		2	1				
		教科領域実習I	1後	3		6	3		1		48
		教科領域実習 II	2前	3		6	3		1		48
		教科領域実習 III	2通	5		6	3		1		48
		特別支援教育教材開発実習 I	1前	1		2					4
		特別支援教育教材開発実習 II	2前	1		2					4
		特別支援教育アセスメント実習 I	1後	1		2					4
		特別支援教育アセスメント実習 II	2後	1		2					4
	特別支援教育ケースカンファレンス実習 I	1通	1		2					4	
	特別支援教育ケースカンファレンス実習 II	2通	1		2					4	
	特別支援教育授業改善実習	2通	5		2					4	
	養護科学実習 I	1通	2		2					4	
	養護科学実習 II	2通	4		2					4	
	養護科学実習 III(未開講)	2通	4		2					4	
	養護科学実習 IV	1後	2		2					6	
小計(21科目)	-	0	58	0	17	5	0	3	0	58	
コース間融合実習	課題発見実習(学校運営コース)	1前	2		7	2		2		3	
	課題発見実習(教育方法開発コース)	1前	2		7	2		2		3	
	課題発見実習(児童生徒支援コース)	1前	2		7	2		2		3	
	教材開発実習 I A(教科領域コース)	1前	1		6	3		1		48	
	教材開発実習 I A(特別支援科学コース)	1前	1		2					4	
	教材開発実習 I A(養護科学コース)	1前	1		2					6	
	教材開発実習 II A(教科領域コース)	2前	1		6	3		1		48	
	教材開発実習 II A(特別支援科学コース)	2前	1		2					4	
教材開発実習 I B(教科領域コース)	1通	1		6	3		1		48		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
実習科目	教材開発実習 I B(特別支援科学コース)	1通		1		2					4
	教材開発実習 I B(養護科学コース)	1通		1		2					6
	教材開発実習 II B(教科領域コース)	2通		1		5	4		1		52
	教材開発実習 II B(特別支援科学コース)	2通		1		2					4
	子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)	1前		1		5	4		1		52
	子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)	1前		1		2					4
	子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)	1前		1		2					6
	小計(16科目)	-	0	19	0	16	8	0	2	0	65
	合計(178科目)	-	6	333	0	16	8	0	2	0	70

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
実習科目	教材開発実習 I B(特別支援科学コース)	1通		1		2					4
	教材開発実習 I B(養護科学コース)	1通		1		2					6
	教材開発実習 II B(教科領域コース)	2通		1		6	3		1		48
	教材開発実習 II B(特別支援科学コース)	2通		1		2					4
	子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)(未開講)	1前		1		6	3		1		48
	子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)(未開講)	1前		1		2					4
	子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)	1前		1		2					6
	小計(16科目)	-	0	19	0	17	5	0	3	0	61
	合計(179科目)	-	6	335	0	17	5	0	3	0	71



【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
共通科目	カリキュラム・マネジメントの理論と実践 I	1前	1			1					1	
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践 II	1前	1			4	1				10	
	ICT活用とプログラミング	1前		2		1					1	
	子ども理解にもとづく学習指導	1前		2		2						
	授業研究の方法と実践	1前		2		1	1					
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(言語・社会・生活科学系)	1前		2							4	
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(自然・科学技術系)	1前		2			1				2	
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(芸術・スポーツ系)	1前		2		1					2	
	特別支援教育の自立活動の授業づくり	1前		2		1						
	心とからだの発達と保健	1前		2							3	
	発達障害児の理解と支援	1前	2								2	
	教育相談の課題と支援	1後		2		1	1					
	子どもの健康と生徒指導	1後		2		2					1	
	特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	1前		2							1	
	インクルーシブ教育の学校づくり	1後		2							1	
	学校マネジメント実践演習	1後		2		2						
	学級経営実践演習	1前		2		1	1					
	学級力を高めるコミュニケーション	1前		2		1					1	
	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	1前	2			2					1	
	教師のライフステージと資質向上	1前		2		1					1	
	学校における多様性の受容と活用	1後		2		1					2	
	小計(21科目)	-	6	34	0	14	3	0	0	0	27	
	共通科目	校内研修の企画・立案と実践	1後		2		3	1				3
		教育測定(評価)と校内研修	1後		2		1					1
		小計(2科目)	-	0	4	0	4	1	0	0	0	4
	専門科目	教育政策の実施と評価	1前		2		1					1
		教育行財政と法規	1後		2		1					1
スクール・リーダーシップとその実践		1前		2		2						
学校危機管理論と実践演習		1後		2		1					1	
学校における評価マネジメント実践演習		1後		2		2						
学校運営課題研究 I		1前		1		3						
学校運営課題研究 II		1後		1		3						
学校運営課題研究 III		2前		1		3						
学校運営課題研究 IV		2後		1		3						
学校運営実践研究 I		1通		1		3						
学校運営実践研究 II		2通		1		3						
教材研究と授業設計		1前		2		1			1			
人間形成の現代的課題と学習指導		1前		2		2						
授業研究による授業改善		1後		2		1	1					
教育方法開発課題研究 I		1前		1		2	1		1			
教育方法開発課題研究 II		1後		1		2	1		1			
教育方法開発課題研究 III		2前		1		2	1		1			
教育方法開発課題研究 IV		2後		1		2	1		1			
教育方法開発実践研究 I		1通		1		2	1		1			
教育方法開発実践研究 II		2通		1		2	1		1			
学校不適応問題への理解と対応		1後		2		1	1					
学級経営と個別指導の実践		1前		2			2					
学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法		1前		2		1	1					
児童生徒支援課題研究 I		1前		1		2	2					
児童生徒支援課題研究 II		1後		1		2	2					
児童生徒支援課題研究 III		2前		1		2	2					
児童生徒支援課題研究 IV		2後		1		2	2					
児童生徒支援実践研究 I	1通		1		2	2						
児童生徒支援実践研究 II	2通		1		2	2						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	国語科内容総合研究	1前		2		1					3
	国語科科目研究(国語学・書写書道)	1後		2							3
	国語科科目研究(国文学・漢文学)	1後		2		1					2
	国語科総合演習 I	1通		2		1					4
	国語科総合演習 II	2通		2		1					4
	社会科内容総合研究	1前		2		1					4
	社会科科目研究(歴史)	1前		2		1					2
	社会科科目研究(地理)	1後		2							1
	社会科科目研究(社会と人間)	1前		2							2
	社会科科目研究(法律と政治)	1後		2							2
	社会科総合演習 I A	1通		2		1					2
	社会科総合演習 I B	1通		2							2
	社会科総合演習 II A	2通		2		1					2
	社会科総合演習 II B	2通		2							2
	算数科内容総合研究	1前		2					1		5
	数学科科目研究(代数学・幾何学)	1後		2					1		2
	数学科科目研究(解析学・統計学)	1後		2							3
	数学科総合演習 I	1通		2					1		5
	数学科総合演習 II	2通		2					1		5
	理科内容総合研究	1前		2			1				7
	理科科目研究(エネルギー・粒子)	1前		2			1				3
	理科科目研究(生命・地球)	1後		2			1				4
	理科総合演習 I	1通		2			1				7
	理科総合演習 II	2通		2			1				7
	音楽科内容総合研究	1後		2			1				5
	音楽科科目研究(表現)	1後		2			1				2
	音楽科科目研究(鑑賞)(未開講)	1前		2							3
	音楽科総合演習 I(未開講)	1通		2			1				5
	音楽科総合演習 II	2通		2			1				5
	図画工作科内容総合研究	1後		2			1				5
	美術科科目研究(絵画・彫刻)(未開講)	1前		2			1				3
	美術科科目研究(デザイン・工芸)	1後		2							4
	美術科総合演習 I(未開講)	1通		2			1				6
	美術科総合演習 II	2通		2			1				6
	体育科内容総合研究	1後		2		1					7
	保健体育科科目研究(保健・体育学)	1前		2		1					3
	保健体育科科目研究(運動学)	1後		2		1					5
	保健体育科総合演習 I	1通		2		1					7
	保健体育科総合演習 II	2通		2		1					7
	技術科内容総合研究	1前		2		1					5
	技術科科目研究(材料と加工・生物育成)	1後		2		1					3
	技術科科目研究(エネルギー変換・情報)	1前		2							3
	技術科総合演習 I	1通		2		1					5
	技術科総合演習 II	2通		2		1					5
	家庭科内容総合研究(未開講)	1前		2		1					5
	家庭科科目研究(人間生活分野)	1後		2		1					2
	家庭科科目研究(生活環境分野)(未開講)	1前		2							3
	家庭科総合演習 I(未開講)	1通		2		1					5
	家庭科総合演習 II	2通		2		1					5
	英語科内容総合研究	1後		2							1
英語科科目研究(英語学)	1後		2							2	
英語科科目研究(英語文学)	1後		2		1					1	
英語科総合演習 I	1通		2		1					3	
英語科総合演習 II	2通		2		1					3	
特別支援学校の教材開発	1前		2		1						
特別支援学校の授業づくり	1前		2		1						
感覚障害児のアセスメントと支援	1後		2							1	
知的障害児のアセスメントと支援 I	1前		2							1	
知的障害児のアセスメントと支援 II	1前		2							1	
障害児の生理機能評価と支援	1後		2		1						
特別支援教育課題発見演習	1後		2		2					4	
特別支援教育課題分析演習	2前		2		2					4	
特別支援教育課題解決演習	2後		2		2					4	
特別支援教育総合演習	1前		2		2					4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	コース別科目	健康科学と社会創造	1後	2		2					
		学校における医学・看護学	1後	2							2
		養護活動と健康増進科学	1後	2							2
		臨床医学特論	1後	2							2
		養護科学課題発見演習	1後	2		2					6
		養護科学課題分析演習	2前	2		2					6
		養護科学課題解決演習	2後	2		2					6
		小計(100科目)	-	0	182	0	17	6	0	2	0
	コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	1前	2							1
		学習指導・学習評価の課題と方法	1前	2			1				1
		教育カウンセリング実践と事例研究	1後	2			1				1
		教育臨床問題と道徳	1後	2			1		1		
		子ども理解と学習支援	1後	2		4	3		1		
		ことばの諸相と教育	1後	2		1					2
		近代化と現代の生活問題	1後	2							3
		芸術の言葉	1前	2							2
		社会の数理	1後	2		1					1
		自然現象の数理	1後	2							4
		あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	1前	2		1	1				2
時間と空間の表現世界	1前	2							4		
読み・書き・計算のつまずきと支援	1前	2							3		
動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	1前	2		1					3		
茨城に学ぶ-地域における教員の在り方-I	1後	2		1	1				4		
茨城に学ぶ-地域における教員の在り方-II	1後	2		1	1				4		
防災を含む安全に関する教育	1後	2		1					4		
持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ	1後	2							5		
課題探索演習	1通	2		8	3		1				
小計(19科目)	-	0	38	0	13	6	0	2	0	35	
実習科目	コース別実習	学校運営実習 I	1後	3		3			1		
		学校運営実習 II	2通	5		3			1		
		教育方法開発実習 I	1後	3		2	1		1		
		教育方法開発実習 II	2通	5		2	1		1		
		児童生徒支援実習	1後	3		2	2				
		学校適応アセスメント実習	2前	3		2	2				
		学校適応支援実習	2後	2		2	2				
		教科領域実習I	1通	3		6	3		1		50
		教科領域実習 II	2前	3		6	3		1		50
		教科領域実習 III	2通	5		6	3		1		50
		特別支援教育教材開発実習 I	1前	1		2					4
		特別支援教育教材開発実習 II	2前	1		2					4
		特別支援教育アセスメント実習 I	1後	1		2					4
		特別支援教育アセスメント実習 II	2後	1		2					4
	特別支援教育ケースカンファレンス実習 I	1前	1		2					4	
	特別支援教育ケースカンファレンス実習 II	2前	1		2					4	
	特別支援教育授業改善実習	2通	5		2					4	
	養護科学実習 I	1通	2		2					4	
	養護科学実習 II	2通	4		2					4	
	養護科学実習 III	2通	4		2					4	
	養護科学実習 IV	1後	2		2					6	
小計(21科目)	-	0	58	0	17	6	0	3	0	60	
コース間融合実習	課題発見実習(学校運営コース)	1前	2		7	3		2		3	
	課題発見実習(教育方法開発コース)	1前	2		7	3		2		3	
	課題発見実習(児童生徒支援コース)	1前	2		7	3		2		3	
	教材開発実習 I A(教科領域コース)	1前	1		6	3		1		50	
	教材開発実習 I A(特別支援科学コース)	1前	1		2					4	
	教材開発実習 I A(養護科学コース)	1前	1		2					6	
	教材開発実習 II A(教科領域コース)	2前	1		6	3		1		50	
	教材開発実習 II A(特別支援科学コース)	2前	1		2					4	
教材開発実習 I B(教科領域コース)	1通	1		6	3		1		50		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
実習科目	教材開発実習 I B(特別支援科学コース)	1通		1		2						4
	教材開発実習 I B(養護科学コース)	1通		1		2						6
	教材開発実習 II B(教科領域コース)	2通		1		6	3		1			50
	教材開発実習 II B(特別支援科学コース)	2通		1		2						4
	子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)(未開講)	1前		1		6	3		1			50
	子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)(未開講)	1前		1		2						4
	子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)(未開講)	1前		1		2						6
小計(16科目)	-	0	19	0	17	6	0	3	0	0	63	
<b>合計(179科目)</b>			-	6	335	0	17	6	0	3	0	71

卒業要件及び履修方法

【全コース(合計48単位以上修得すること)】

【学校運営コース】

- 共通科目(20単位以上修得すること)
  - ・教育課程の編成・実施に関する領域(2単位修得すること)
  - ・教科等の実践的な指導方法に関する領域(4単位以上修得すること)
  - ・生徒指導、教育相談に関する領域(4単位修得すること)
  - ・学級経営、学校経営に関する領域(4単位以上修得すること)
  - ・学校教育と教員の在り方に関する領域(4単位修得すること)
  - ・学校改善と校内研修に関する領域(2単位修得すること)

- 専門科目(18単位以上修得すること)
  - ・コース別科目(16単位修得すること)
  - ・コース間融合科目(2単位以上修得すること)

- 実習科目(10単位修得すること)
  - ・コース別実習(8単位修得すること)
  - ・コース間実習(2単位修得すること)

【教育方法開発コース、児童生徒支援コース】

- 共通科目(20単位以上修得すること)
  - ・教育課程の編成・実施に関する領域(2単位修得すること)
  - ・教科等の実践的な指導方法に関する領域(4単位以上修得すること)
  - ・生徒指導、教育相談に関する領域(4単位修得すること)
  - ・学級経営、学校経営に関する領域(4単位以上修得すること)
  - ・学校教育と教員の在り方に関する領域(4単位修得すること)
  - ・学校改善と校内研修に関する領域(2単位修得すること)

- 専門科目(18単位以上修得すること)
  - ・コース別科目(12単位修得すること)
  - ・コース間融合科目(6単位以上修得すること)

- 実習科目(10単位修得すること)
  - ・コース別実習(8単位修得すること)
  - ・コース間実習(2単位修得すること)

【教科領域コース】

- 共通科目(18単位以上修得すること)
  - ・教育課程の編成・実施に関する領域(2単位修得すること)
  - ・教科等の実践的な指導方法に関する領域(4単位以上修得すること)
  - ・生徒指導、教育相談に関する領域(4単位以上修得すること)
  - ・学級経営、学校経営に関する領域(2単位以上修得すること)
  - ・学校教育と教員の在り方に関する領域(2単位以上修得すること)
  - ・学校改善と校内研修に関する領域(2単位修得すること)
- ※「教科等の実践的な指導方法に関する領域」、「生徒指導、教育相談に関する領域」、「学級経営、学校経営に関する領域」及び「学校教育と教員の在り方に関する領域」から合計14単位以上修得すること

- 専門科目(20単位以上修得すること)
  - ・コース別科目(10単位以上修得すること)
  - ・コース間融合科目(10単位以上修得すること)

- 実習科目(10単位修得すること)
  - 学部新卒学生
    - ・コース別実習(6単位修得すること)
    - ・コース間実習(4単位修得すること)

- 現職教員学生
  - ・コース別実習(8単位修得すること)
  - ・コース間実習(2単位修得すること)

【特別支援科学コース】

- 共通科目(18単位以上修得すること)
  - ・教育課程の編成・実施に関する領域(2単位修得すること)
  - ・教科等の実践的な指導方法に関する領域(2単位以上修得すること)
  - ・生徒指導、教育相談に関する領域(6単位修得すること)
  - ・学級経営、学校経営に関する領域(2単位以上修得すること)
  - ・学校教育と教員の在り方に関する領域(2単位以上修得すること)
  - ・学校改善と校内研修に関する領域(2単位修得すること)
- ※「教科等の実践的な指導方法に関する領域」、「学級経営、学校経営に関する領域」及び「学校教育と教員の在り方に関する領域」から合計8単位以上修得すること

- 専門科目(20単位以上修得すること)
  - ・コース別科目(14単位以上修得すること)
  - ・コース間融合科目(6単位以上修得すること)

- 実習科目(10単位修得すること)
  - 学部新卒学生
    - ・コース別実習(6単位修得すること)
    - ・コース間実習(4単位修得すること)

- 現職教員学生
  - ・コース別実習(8単位修得すること)
  - ・コース間実習(2単位修得すること)

【養護科学コース】

○共通科目（18単位以上修得すること）

- ・教育課程の編成・実施に関する領域（2単位修得すること）
- ・教科等の実践的な指導方法に関する領域（2単位以上修得すること）
- ・生徒指導、教育相談に関する領域（4単位以上修得すること）
- ・学級経営、学校経営に関する領域（2単位以上修得すること）
- ・学校教育と教員の在り方に関する領域（2単位以上修得すること）
- ・学校改善と校内研修に関する領域（2単位修得すること）

※「教科等の実践的な指導方法に関する領域」、「生徒指導、教育相談に関する領域」、「学級経営、学校経営に関する領域」及び「学校教育と教員の在り方に関する領域」から合計14単位以上修得すること

○専門科目（20単位以上修得すること）

- ・コース別科目（14単位以上修得すること）
- ・コース間融合科目（6単位以上修得すること）

○実習科目（10単位修得すること）

- ・コース別実習（8単位修得すること）
- ・コース間実習（2単位修得すること）

（履修科目の登録の上限：44単位（年間））

- （注）
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。  
（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。



(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・昇進により、「カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ」の教員配置を「教授3」から「教授4」に、「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・昇進により、「ICT活用とプログラミング」の教員配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・退職により、「校内研修の企画・立案と実践」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・昇進により、「教育測定（評価）と校内研修」の教員配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・退職により、「教育政策の実施と評価」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に、「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」に変更。
- ・退職により、「教育行財政と法規」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に、「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」に変更。
- ・退職により、「学校危機管理論と実践演習」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に、「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」に変更。
- ・退職により、「学校運営課題研究Ⅰ」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・退職により、「学校運営課題研究Ⅱ」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・退職により、「学校運営課題研究Ⅲ」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・退職により、「学校運営課題研究Ⅳ」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・退職により、「学校運営実践研究Ⅰ」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・退職により、「学校運営実践研究Ⅱ」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・サバティカルにより、「社会科内容総合研究」の教員配置を「兼任・兼担5」から「兼任・兼担4」に変更。
- ・サバティカルにより、「社会科科目研究（地理）」の教員配置を「兼任・兼担2」から「兼任・兼担1」に変更。
- ・サバティカルにより、「社会科総合演習ⅠA」の教員配置を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・サバティカルにより、「社会科総合演習ⅡA」の教員配置を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・昇進により、「技術科内容総合研究」の教員配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・昇進により、「技術科科目研究（材料と加工・生物育成）」の教員配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・昇進により、「技術科総合演習Ⅰ」の教員配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・昇進により、「技術科総合演習Ⅱ」の教員配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・退職により、「英語科内容総合研究」の教員配置を「兼任・兼担2」から「兼任・兼担1」に変更。
- ・退職により、「英語科科目研究（英語文学）」の教員配置を「兼任・兼担2」から「兼任・兼担1」に変更。
- ・退職により、「英語科総合演習Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼担4」から「兼任・兼担3」に変更。
- ・退職により、「英語科総合演習Ⅱ」の教員配置を「兼任・兼担4」から「兼任・兼担3」に変更。
- ・授業科目の充実を図るため、授業科目「特別支援教育総合演習」を追加。
- ・退職により、「学校を基盤としたカリキュラム開発と実践」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・昇進により、「防災を含む安全に関する教育」の教員配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・昇進により、「課題探索演習」の教員配置を「教授7」から「教授8」に、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・退職及び採用により、「学校運営実習Ⅰ」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に、「助教0」から「助教1」に変更。
- ・退職及び採用により、「学校運営実習Ⅱ」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に、「助教0」から「助教1」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教科領域実習Ⅰ」の配当年次を「1後」から「1通」に変更。
- ・昇進、サバティカル及び退職により、「教科領域実習Ⅰ」の教員配置を「教授5」から「教授6」に、「准教授4」から「准教授3」に、「兼任・兼担52」から「兼任・兼担50」に変更。
- ・昇進、サバティカル及び退職により、「教科領域実習Ⅱ」の教員配置を「教授5」から「教授6」に、「准教授4」から「准教授3」に、「兼任・兼担52」から「兼任・兼担50」に変更。
- ・昇進、サバティカル及び退職により、「教科領域実習Ⅲ」の教員配置を「教授5」から「教授6」に、「准教授4」から「准教授3」に、「兼任・兼担52」から「兼任・兼担50」に変更。
- ・退職及び採用により、「課題発見実習（学校運営コース）」の教員配置を「准教授4」から「准教授3」に、「助教1」から「助教2」に変更。
- ・退職及び採用により、「課題発見実習（教育方法開発コース）」の教員配置を「准教授4」から「准教授3」に、「助教1」から「助教2」に変更。
- ・退職及び採用により、「課題発見実習（児童生徒支援コース）」の教員配置を「准教授4」から「准教授3」に、「助教1」から「助教2」に変更。
- ・昇進、サバティカル及び退職により、「教材開発実習ⅠA（教科領域コース）」の教員配置を「教授5」から「教授6」に、「准教授4」から「准教授3」に、「兼任・兼担52」から「兼任・兼担50」に変更。
- ・昇進、サバティカル及び退職により、「教材開発実習ⅡA（教科領域コース）」の教員配置を「教授5」から「教授6」に、「准教授4」から「准教授3」に、「兼任・兼担52」から「兼任・兼担50」に変更。
- ・昇進、サバティカル及び退職により、「教材開発実習ⅠB（特別支援科学コース）」の教員配置を「教授5」から「教授6」に、「准教授4」から「准教授3」に、「兼任・兼担52」から「兼任・兼担50」に変更。
- ・昇進、サバティカル及び退職により、「教材開発実習ⅡB（教科領域コース）」の教員配置を「教授5」から「教授6」に、「准教授4」から「准教授3」に、「兼任・兼担52」から「兼任・兼担50」に変更。
- ・昇進、サバティカル及び退職により、「子どもと大人への一次救命処置実習（教科領域コース）」の教員配置を「教授5」から「教授6」に、「准教授4」から「准教授3」に、「兼任・兼担52」から「兼任・兼担50」に変更。

【令和4年度】

- ・担当教員見直しにより、「校内研修の企画・立案と実践」の教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「教育政策の実施と評価」の教員配置を「助教0」から「助教1」に、「兼任・兼担1」から「兼任・兼担0」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「教育行財政と法規」の教員配置を「助教0」から「助教1」に、「兼任・兼担1」から「兼任・兼担0」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「学校危機管理論と実践演習」の教員配置を「助教0」から「助教1」に、「兼任・兼担1」から「兼任・兼担0」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「学校運営課題研究Ⅰ」の教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「学校運営課題研究Ⅱ」の教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「学校運営課題研究Ⅲ」の教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「学校運営課題研究Ⅳ」の教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「学校運営実践研究Ⅰ」の教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「学校運営実践研究Ⅱ」の教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・退職により、「学級経営と個別指導の実践」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に、「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」に変更。
- ・退職により、「児童生徒支援課題研究Ⅰ」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・退職により、「児童生徒支援課題研究Ⅱ」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・退職により、「児童生徒支援課題研究Ⅲ」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・退職により、「児童生徒支援課題研究Ⅳ」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・退職により、「児童生徒支援実践研究Ⅰ」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・退職により、「児童生徒支援実践研究Ⅱ」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・退職により、「音楽科内容総合研究」の教員配置を「兼任・兼担5」から「兼任・兼担3」に変更。
- ・退職により、「音楽科科目研究（鑑賞）」の教員配置を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・退職により、「音楽科総合演習Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼担5」から「兼任・兼担3」に変更。
- ・退職により、「音楽科総合演習Ⅱ」の教員配置を「兼任・兼担5」から「兼任・兼担3」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「英語科内容総合研究」の教員配置を「教授0」から「教授1」に、「兼任・兼担1」を「兼任・兼担3」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「英語科科目研究（英語文学）」の教員配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・担当教員見直しにより、「学校を基盤としたカリキュラム開発と実践」の教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・退職により、「教育カウンセリング実践と事例研究」の教員配置を「准教授1」から「准教授0」に、「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・退職により、「子ども理解と学習支援」の教員配置を「准教授3」から「准教授2」に、「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」に変更。
- ・退職により、「児童生徒支援実習」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・退職により、「学校適応アセスメント実習」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・退職により、「学校適応支援実習」の教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・退職により、「教科領域実習Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼担50」から「兼任・兼担48」に変更。
- ・退職により、「教科領域実習Ⅱ」の教員配置を「兼任・兼担50」から「兼任・兼担48」に変更。
- ・退職により、「教科領域実習Ⅲ」の教員配置を「兼任・兼担50」から「兼任・兼担48」に変更。
- ・教育効果向上のため、「特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ」の配当年次を「1前」から「1通」に変更。
- ・教育効果向上のため、「特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ」の配当年次を「2前」から「2通」に変更。
- ・退職により、「課題発見実習（学校運営コース）」の教員配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。
- ・退職により、「課題発見実習（教育方法開発コース）」の教員配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。
- ・退職により、「課題発見実習（児童生徒支援コース）」の教員配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。
- ・退職により、「教材開発実習ⅠA（教科領域コース）」の教員配置を「兼任・兼担50」から「兼任・兼担48」に変更。
- ・退職により、「教材開発実習ⅡA（教科領域コース）」の教員配置を「兼任・兼担50」から「兼任・兼担48」に変更。
- ・退職により、「教材開発実習ⅠB（教科領域コース）」の教員配置を「兼任・兼担50」から「兼任・兼担48」に変更。
- ・退職により、「教材開発実習ⅡB（教科領域コース）」の教員配置を「兼任・兼担50」から「兼任・兼担48」に変更。
- ・退職により、「子どもと大人への一次救命処置実習」の教員配置を「兼任・兼担50」から「兼任・兼担48」に変更。

(注) 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	174 科目	0 科目	178 科目	4 科目 [ 0 ]	175 科目 [ 1 ]	0 科目 [ 0 ]	179 科目 [ 1 ]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目 「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	共通・実習・その他	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	共通・実習・その他	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」  
「該当なし」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{178} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考		
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	土地の譲渡による減少(4) △24,165㎡ 不算入用地見直し(3) 577㎡		
	校舎敷地	302,661㎡ 312,031㎡	㎡	㎡	302,661㎡ 312,031㎡			
	運動場用地	63,287㎡ 74,277㎡	㎡	㎡	63,287㎡ 74,277㎡			
	小計	365,948㎡ 386,308㎡	㎡	㎡	365,948㎡ 386,308㎡			
	その他	421,277㎡ 445,442㎡ 424,505㎡	㎡	㎡	421,277㎡ 445,442㎡ 424,505㎡			
	合計	787,225㎡ 811,390㎡ 810,813㎡	㎡	㎡	787,225㎡ 811,390㎡ 810,813㎡			
(2) 校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	不算入用地見直し(4) △470㎡ 不算入用地見直し(3) △4,105㎡			
	142,880㎡ 143,350㎡ 147,455㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	142,880㎡ 143,350㎡ 147,455㎡ (㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	演習室を共通院生室に転用(4)		
	17室	4850室	38室	室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室数				
	教育学研究科教育実践高度化専攻			室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定不能なため、大学全体の数 【図書及び視聴覚資料】 新規購入による増加及び除却による減少のため(4) 新規購入による増加及び除却による減少のため(3) 【学術雑誌】 新規購入による増加及び購入タイトル見直しによる減少のため(4) 新規購入による増加及び購入タイトル見直しによる減少のため(3)
	教育学研究科教育実践高度化専攻	1,017,887 [283,571] +1,014,952 [283,436] -1,009,497 [283,199]	16,479 [4,713] 16,468 [4,707] 17,414 [5,688]	2,456 [2,452] 2,608 [2,604] 2,519 [2,516]	3,203 3,193 2,761	0	0	
		(1,017,887 [283,571]) (+1,014,952 [283,436]) (-1,009,497 [283,199])	(16,479 [4,713]) (16,468 [4,707]) (17,414 [5,688])	(2,456 [2,452]) (2,608 [2,604]) (2,519 [2,516])	(3,203) (3,193) (2,761)	(0)	(0)	
	計	1,017,887 [283,571] +1,014,952 [283,436] +1,009,497 [283,199]	16,479 [4,713] 16,468 [4,707] 17,414 [5,688]	2,456 [2,452] 2,608 [2,604] 2,519 [2,516]	3,203 3,193 2,761	0	0	
(6) 図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数					
	11,986㎡	865	952,000	大学全体				
(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体 不算入用地見直し(3) △2,008		
	3,687㎡ 5,695㎡	武道場	武道場	武道場	武道場			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	茨城大学						学生募集停止学科数	19	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
人文社会科学部	4	360	-	1,440	-	1.03	1.04	-	平成29	-	
現代社会学科	4	130	-	520	学士(現代社会学)	1.03	1.03	-	平成29	茨城県水戸市文京2-1-1	
法律経済学科	4	120	-	480	学士(社会科学)	1.03	1.05	-	平成29	同上	
人間文化学科	4	110	-	440	学士(人文科学)	1.02	1.05	-	平成29	同上	
人文学部	4	-	-	-	-	-	-	-	昭和42	同上	
人文コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(人文科学)	-	-	-	平成18	同上	平成29年度より学生募集停止
社会科学科	4	-	-	-	学士(社会科学)	-	-	-	昭和50	同上	平成29年度より学生募集停止
教育学部	4	275	-	1,100	-	1.03	1.03	-	昭和24	-	
学校教育教員養成課程	4	240	-	960	学士(教育学)	1.03	1.03	-	平成8	茨城県水戸市文京2-1-1	
養護教諭養成課程	4	35	-	140	学士(教育学)	1.01	1.00	-	昭和50	同上	
情報文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	-	-	平成元	同上	平成29年度より学生募集停止
理学部	-	205	3年次4	828	-	1.06	1.04	-	昭和42	-	
理学科	4	205	3年次4	828	学士(理学)	1.06	1.04	-	平成17	茨城県水戸市文京2-1-1	
工学部	4	545	3年次20	2,220	-	1.02	1.03	-	昭和24	-	
機械システム工学科(昼)	4	130	3年次6	532	学士(工学)	1.02	1.05	-	平成30	茨城県日立市中成沢町4-12-1	
機械システム工学科(夜)	4	40	-	160	学士(工学)	1.04	1.05	-	平成30	同上	
電気電子システム工学科	4	125	3年次5	510	学士(工学)	1.02	1.01	-	平成30	同上	
物質科学工学科	4	110	3年次3	446	学士(工学)	1.01	1.01	-	平成30	同上	
情報工学科	4	80	3年次4	328	学士(工学)	1.02	1.03	-	平成30	同上	
都市システム工学科	4	60	3年次2	244	学士(工学)	1.06	1.03	-	平成30	同上	
機械工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成2	同上	平成30年度より学生募集停止
生体分子機能工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成17	同上	平成30年度より学生募集停止
マテリアル工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成17	同上	平成30年度より学生募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成2	同上	平成30年度より学生募集停止
情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成2	同上	平成30年度より学生募集停止
都市システム工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成2	同上	平成30年度より学生募集停止
メディア通信工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成8	同上	平成30年度より学生募集停止
知能システム工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成17	同上	平成30年度より学生募集停止
知能システム工学科(B)	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成17	同上	平成30年度より学生募集停止
農学部	4	160	3年次10	660	-	1.03	1.03	-	昭和27	-	
食生命科学科	4	80	3年次5	330	学士(農学)	1.01	1.02	-	平成29	茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1	
地域総合農学科	4	80	3年次5	330	学士(農学)	1.04	1.03	-	平成29	同上	
生物生産科学科	4	-	-	-	学士(農学)	-	-	-	平成12	同上	平成29年度より学生募集停止
資源生物科学科	4	-	-	-	学士(農学)	-	-	-	昭和62	同上	平成29年度より学生募集停止
大学全体(学部)	-	1,545	34	6,248	-	1.03	1.03	-	-	-	
人文社会科学研究科	2	31	-	62	-	0.59	0.61	-	平成29	-	
人文科学専攻	2	17	-	34	修士(学術)	0.79	0.94	-	令和3	茨城県水戸市文京2-1-1	
社会科学専攻	2	14	-	28	修士(学術)	0.35	0.21	-	令和3	同上	
文化科学専攻	2	-	-	-	修士(学術)	-	-	-	平成21	同上	令和3年度より学生募集停止

社会科学専攻	2	-	-	-	修士 (学術)	-	-	-	平成26	同上	令和3年度より学生募集停止
教育学研究科	2	43	-	86	-	0.91	0.90	-	昭和63	-	
教育実践高度化専攻	2	43	-	86	教職修士 (専門職)	0.91	0.90	-	令和3	茨城県水戸市文京2-1-1	
教科教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和63	同上	令和3年度より学生募集停止
理工学研究科 (博士前期課程)	2	348	-	696		1.24	1.22	-	平成7	-	
量子線科学専攻	2	102	-	204	修士(理学) 修士(工学)	1.11	1.07	-	平成28	茨城県水戸市文京2-1-1 茨城県日立市中成沢町4-12-1	
理学専攻	2	45	-	90	修士 (理学)	1.15	0.95	-	平成21	茨城県水戸市文京2-1-1	
機械システム工学専攻	2	86	-	172	修士 (工学)	1.16	1.17	-	平成30	茨城県日立市中成沢町4-12-1	
電気電子システム工学専攻	2	58	-	116	修士 (工学)	1.19	1.31	-	平成30	同上	
情報工学専攻	2	30	-	60	修士 (工学)	1.88	1.70	-	平成30	同上	
都市システム工学専攻	2	27	-	54	修士 (工学)	1.62	1.70	-	平成30	同上	
農学研究科	-	48	-	96	修士 (農学)	1.00	1.14	-	昭和45	-	
農学専攻	2	48	-	96	修士 (農学)	1.00	1.14	-	平成29	茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1	
地域環境科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	-	平成16	同上	平成29年度より学生募集停止
大学全体(大学院)	-	470	-	940		1.14	1.14	-	-	-	
理工学研究科 (博士後期課程)	3	38	-	114	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.66	0.86	-	平成7	-	
量子線科学専攻	3	20	-	60	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.41	0.45	-	平成28	茨城県水戸市文京2-1-1 茨城県日立市中成沢町4-12-1	
複雑系システム科学専攻	3	10	-	30	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.70	0.90	-	平成28	同上	
社会インフラシステム科学専攻	3	8	-	24	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	1.24	1.87	-	平成28	同上	
生産科学専攻	3	-	-	-	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	-	-	-	平成7	茨城県日立市中成沢町4-12-1	平成28年度より学生募集停止
大学全体(大学院(博士後期))	-	38	-	114		0.66	0.86	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 教育実践高度化専攻 (P) >

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

【令和4年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	生越 達 (61) <令和3年4月> 教育学修士※
		子ども理解にもとづく学習指導 人間形成の現代的課題と学習指導 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	教授	三輪 壽二 (59) <令和3年4月> 教育学修士
		教育相談の課題と支援 学校不適應問題への理解と対応 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	生越 達 (61) <令和3年4月> 教育学修士※
		子ども理解にもとづく学習指導 人間形成の現代的課題と学習指導 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	教授	三輪 壽二 (59) <令和3年4月> 教育学修士
		教育相談の課題と支援 学校不適應問題への理解と対応 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	生越 達 (62) <令和3年4月> 教育学修士※
		子ども理解にもとづく学習指導 人間形成の現代的課題と学習指導 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	教授	三輪 壽二 (60) <令和3年4月> 教育学修士
		教育相談の課題と支援 学校不適應問題への理解と対応 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	渡部 玲二郎 (56) ＜令和3年4月＞ 博士(心理学)
		学級経営実践演習 学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	教授	加藤 崇英 (50) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		学校マネジメント実践演習 茨城の教育改革と開かれた学校づくり 校内研修の企画・立案と実践 スクール・リーダーシップとその実践 学校における評価マネジメント実践演習 学校運営課題研究Ⅰ 学校運営課題研究Ⅱ 学校運営課題研究Ⅲ 学校運営課題研究Ⅳ 学校運営実践研究Ⅰ 学校運営実践研究Ⅱ 学校運営実習Ⅰ 学校運営実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	渡部 玲二郎 (56) ＜令和3年4月＞ 博士(心理学)
		学級経営実践演習 学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	教授	加藤 崇英 (50) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		学校マネジメント実践演習 茨城の教育改革と開かれた学校づくり 校内研修の企画・立案と実践 スクール・リーダーシップとその実践 学校における評価マネジメント実践演習 学校運営課題研究Ⅰ 学校運営課題研究Ⅱ 学校運営課題研究Ⅲ 学校運営課題研究Ⅳ 学校運営実践研究Ⅰ 学校運営実践研究Ⅱ 学校運営実習Ⅰ 学校運営実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	渡部 玲二郎 (57) ＜令和3年4月＞ 博士(心理学)
		学級経営実践演習 学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	教授	加藤 崇英 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		学校マネジメント実践演習 茨城の教育改革と開かれた学校づくり 校内研修の企画・立案と実践 スクール・リーダーシップとその実践 学校における評価マネジメント実践演習 学校運営課題研究Ⅰ 学校運営課題研究Ⅱ 学校運営課題研究Ⅲ 学校運営課題研究Ⅳ 学校運営実践研究Ⅰ 学校運営実践研究Ⅱ 学校運営実習Ⅰ 学校運営実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	千葉(小酒井)真由美 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(歴史) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA ことばの諸相と教育 社会の数理 茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ 茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
専	教授	吉野 聡 (53) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)
		主體的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系) 体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	千葉(小酒井)真由美 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(歴史) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA ことばの諸相と教育 社会の数理 茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ 茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
専	教授	吉野 聡 (53) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)
		主體的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系) 体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	千葉(小酒井)真由美 (51) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(歴史) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA ことばの諸相と教育 社会の数理 茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ 茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
専	教授	吉野 聡 (54) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)
		主體的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系) 体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤(大西)裕紀子 (53) <令和3年4月> 博士(学術)
		学校における多様性の受容と活用 家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(人間生活分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
専	教授	小林 英美 (53) <令和3年4月> 博士(学術)
		英語科科目研究(英語文学)  英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ あそびに学ぶ-Communication with Imagination- 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤(大西)裕紀子 (53) <令和3年4月> 博士(学術)
		学校における多様性の受容と活用 家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(人間生活分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
専	教授	小林 英美 (53) <令和3年4月> 博士(学術)
		英語科科目研究(英語文学)  英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ あそびに学ぶ-Communication with Imagination- 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤(大西)裕紀子 (54) <令和3年4月> 博士(学術)
		学校における多様性の受容と活用 家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(人間生活分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
専	教授	小林 英美 (54) <令和3年4月> 博士(学術)
		英語科科目研究(英語文学) <b>英語科内容総合研究</b> 英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ あそびに学ぶ-Communication with Imagination- 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	勝二 博亮 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		障害児の生理機能評価と支援 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)
専	教授	新井 英靖 (48) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 特別支援教育の自立活動の授業づくり 特別支援学校の教材開発 特別支援学校の授業づくり 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 課題探索演習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	勝二 博亮 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		障害児の生理機能評価と支援 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>
専	教授	新井 英靖 (48) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 特別支援教育の自立活動の授業づくり 特別支援学校の教材開発 特別支援学校の授業づくり 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 課題探索演習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	勝二 博亮 (51) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		障害児の生理機能評価と支援 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>
専	教授	新井 英靖 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 特別支援教育の自立活動の授業づくり 特別支援学校の教材開発 特別支援学校の授業づくり 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 課題探索演習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	瀧澤 利行 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学) 博士(医学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 子どもの健康と生徒指導 健康科学と社会創造 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
専	教授	石原 研治 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(薬学)
		子どもの健康と生徒指導 健康科学と社会創造 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 課題探索演習 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
専	准教授	丸山 広人 (48) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		学級経営と個別指導の実践 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 教育カウンセリング実践と事例研究 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	瀧澤 利行 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学) 博士(医学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 子どもの健康と生徒指導 健康科学と社会創造 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
専	教授	石原 研治 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(薬学)
		子どもの健康と生徒指導 健康科学と社会創造 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 課題探索演習 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
専	准教授	丸山 広人 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		学級経営と個別指導の実践 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 教育カウンセリング実践と事例研究 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	瀧澤 利行 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学) 博士(医学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 子どもの健康と生徒指導 健康科学と社会創造 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
専	教授	石原 研治 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(薬学)
		子どもの健康と生徒指導 健康科学と社会創造 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 課題探索演習 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
専	准教授	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	杉本 憲子 (47) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		授業研究の方法と実践 授業研究による授業改善 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 学習指導・学習評価の課題と方法 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	准教授	照屋 翔太 (39) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		校内研修の企画・立案と実践 教育政策の実施と評価 教育行財政と法規 学校危機管理論と実践演習 学校運営課題研究Ⅰ 学校運営課題研究Ⅱ 学校運営課題研究Ⅲ 学校運営課題研究Ⅳ 学校運営実践研究Ⅰ 学校運営実践研究Ⅱ 学校を基盤としたカリキュラム開発と実践 学校運営実習Ⅰ 学校運営実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	准教授	田中 宏明 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(表現) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	杉本 憲子 (47) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		授業研究の方法と実践 授業研究による授業改善 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 学習指導・学習評価の課題と方法 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	准教授	
専	准教授	田中 宏明 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(表現) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	杉本 憲子 (48) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		授業研究の方法と実践 授業研究による授業改善 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 学習指導・学習評価の課題と方法 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
専	准教授	
専	准教授	田中 宏明 (52) ＜令和3年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(表現) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	片口 直樹 (43) ＜令和3年4月＞ 修士(芸術)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究(絵画・彫刻) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ あそびに学ぶ-Communication with Imagination- 茨城に学ぶ-地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ-地域における教員の在り方Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
専	助教	宮本 浩紀 (34) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		教材研究と授業設計 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 教育臨床問題と道徳 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	片口 直樹 (43) ＜令和3年4月＞ 修士(芸術)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究(絵画・彫刻) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ あそびに学ぶ-Communication with Imagination- 茨城に学ぶ-地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ-地域における教員の在り方Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
専	助教	宮本 浩紀 (34) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		教材研究と授業設計 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 教育臨床問題と道徳 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	片口 直樹 (44) ＜令和3年4月＞ 修士(芸術)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究(絵画・彫刻) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ あそびに学ぶ-Communication with Imagination- 茨城に学ぶ-地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ-地域における教員の在り方Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
専	助教	宮本 浩紀 (35) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		教材研究と授業設計 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 教育臨床問題と道徳 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	豊田 昌幸 (62) ＜令和3年4月＞ 経済学士
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践 I カリキュラム・マネジメントの理論と実践 II 授業研究の方法と実践 茨城の教育改革と開かれた学校づくり 教育政策の実施と評価 学校危機管理論と実践演習 学校における評価マネジメント実践演習 学校運営課題研究 I 学校運営課題研究 II 学校運営課題研究 III 学校運営課題研究 IV 学校運営実践研究 I 学校運営実践研究 II 学校運営実習 I 学校運営実習 II 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	高野 貴大 (28) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践 I カリキュラム・マネジメントの理論と実践 II 授業研究の方法と実践 茨城の教育改革と開かれた学校づくり 教育政策の実施と評価 学校危機管理論と実践演習 学校における評価マネジメント実践演習 学校運営課題研究 I 学校運営課題研究 II 学校運営課題研究 III 学校運営課題研究 IV 学校運営実践研究 I 学校運営実践研究 II 学校運営実習 I 学校運営実習 II 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	高野 貴大 (29) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		教育政策の実施と評価 学校運営課題研究 I 学校運営課題研究 II 学校運営課題研究 III 学校運営課題研究 IV 学校運営実践研究 I 学校運営実践研究 II 学校を基盤としたカリキュラム開発と実践 校内研修の企画・立案と実践 教育行財政と法律 学校危機管理論と実践演習 学校運営実習 I 学校運営実習 II 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	永田 博 (62) <令和3年4月> 文学士
		学校マネジメント実践演習 教師のライフステージと資質向上 校内研修の企画・立案と実践 教育行財政と法規 スクール・リーダーシップとその実践 学校運営課題研究Ⅰ 学校運営課題研究Ⅱ 学校運営課題研究Ⅲ 学校運営課題研究Ⅳ 学校運営実践研究Ⅰ 学校運営実践研究Ⅱ 人間形成の現代的課題と学習指導 学校運営実習Ⅰ 学校運営実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	永田 博 (62) <令和3年4月> 文学士
		学校マネジメント実践演習 教師のライフステージと資質向上 校内研修の企画・立案と実践 教育行財政と法規 スクール・リーダーシップとその実践 学校運営課題研究Ⅰ 学校運営課題研究Ⅱ 学校運営課題研究Ⅲ 学校運営課題研究Ⅳ 学校運営実践研究Ⅰ 学校運営実践研究Ⅱ 人間形成の現代的課題と学習指導 学校運営実習Ⅰ 学校運営実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	鈴木 稔 (60) <令和4年4月> 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 授業研究の方法と実践 茨城の教育改革と開かれた学校づくり 教育政策の実施と評価 学校危機管理理論と実践演習 学校における評価マネジメント実践演習 学校運営課題研究Ⅰ 学校運営課題研究Ⅱ 学校運営課題研究Ⅲ 学校運営課題研究Ⅳ 学校運営実践研究Ⅰ 学校運営実践研究Ⅱ 学校運営実習Ⅰ 学校運営実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	打越 正貴 (60) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		子ども理解にもとづく学習指導 校内研修の企画・立案と実践 教材研究と授業設計 授業研究による授業改善 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
実専	教授	鈴木 一史 (53) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		学級力を高めるコミュニケーション 国語科内容総合研究 国語科科目研究(国文学・漢文学) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	打越 正貴 (60) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		子ども理解にもとづく学習指導 校内研修の企画・立案と実践 教材研究と授業設計 授業研究による授業改善 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
実専	教授	鈴木 一史 (53) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		学級力を高めるコミュニケーション 国語科内容総合研究 国語科科目研究(国文学・漢文学) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	長谷川 真人 (60) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		学校マネジメント実践演習 教師のライフステージと資質向上 校内研修の企画・立案と実践 教育行財政と法規 スクール・リーダーシップとその実践 学校運営課題研究Ⅰ 学校運営課題研究Ⅱ 学校運営課題研究Ⅲ 学校運営課題研究Ⅳ 学校運営実践研究Ⅰ 学校運営実践研究Ⅱ 人間形成の現代的課題と学習指導 学校運営実習Ⅰ 学校運営実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
実専	教授	打越 正貴 (61) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		子ども理解にもとづく学習指導 校内研修の企画・立案と実践 教材研究と授業設計 授業研究による授業改善 教育方法開発課題研究Ⅰ 教育方法開発課題研究Ⅱ 教育方法開発課題研究Ⅲ 教育方法開発課題研究Ⅳ 教育方法開発実践研究Ⅰ 教育方法開発実践研究Ⅱ 子ども理解と学習支援 教育方法開発実習Ⅰ 教育方法開発実習Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
実専	教授	鈴木 一史 (54) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		学級力を高めるコミュニケーション 国語科内容総合研究 国語科科目研究(国文学・漢文学) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
		子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
実専	准教授	大西 有 (55) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ ICT活用とプログラミング 教育測定(評価)と校内研修 技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
実専	准教授	開田 晃央 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		教育相談の課題と支援 学級経営実践演習 校内研修の企画・立案と実践 学校不応問題への理解と対応 学級経営と個別指導の実践 学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 教育臨床問題と道徳 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
		子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
実専	教授	大西 有 (55) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ ICT活用とプログラミング 教育測定(評価)と校内研修 技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
実専	准教授	開田 晃央 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		教育相談の課題と支援 学級経営実践演習 校内研修の企画・立案と実践 学校不応問題への理解と対応 学級経営と個別指導の実践 学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 教育臨床問題と道徳 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
		子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
実専	教授	大西 有 (56) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ ICT活用とプログラミング 教育測定(評価)と校内研修 技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
実専	准教授	開田 晃央 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		教育相談の課題と支援 学級経営実践演習 校内研修の企画・立案と実践 学校不応問題への理解と対応 学級経営と個別指導の実践 学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 教育臨床問題と道徳 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	宮本 直樹 (49) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系) 理科内容総合研究 理科学科目研究(エネルギー・粒子) 理科学科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	宮本 直樹 (49) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系) 理科内容総合研究 理科学科目研究(エネルギー・粒子) 理科学科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	小林 伸彦 (46) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		教育相談の課題と支援 学級経営実践演習 校内研修の企画・立案と実践 学校不応問題への理解と対応 学級経営と個別指導の実践 学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法 児童生徒支援課題研究Ⅰ 児童生徒支援課題研究Ⅱ 児童生徒支援課題研究Ⅲ 児童生徒支援課題研究Ⅳ 児童生徒支援実践研究Ⅰ 児童生徒支援実践研究Ⅱ 教育臨床問題と道徳 子ども理解と学習支援 児童生徒支援実習 学校適応アセスメント実習 学校適応支援実習 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
実専	准教授	宮本 直樹 (50) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系) 理科内容総合研究 理科学科目研究(エネルギー・粒子) 理科学科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	荻原 文弘 (55) ＜令和3年4月＞ 理学修士
		算数科内容総合研究 数学科科目研究(代数学・幾何学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	齋木 久美 (58) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		国語科内容総合研究 国語科科目研究(国語学・書写書道) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 読み・書き・計算のつまずきと支援 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	昌子 佳広 (55) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 国語科内容総合研究 国語科科目研究(国語学・書写書道) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	川嶋 秀之 (65) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		国語科科目研究(国語学・書写書道) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	荻原 文弘 (55) ＜令和3年4月＞ 理学修士
		算数科内容総合研究 数学科科目研究(代数学・幾何学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	齋木 久美 (58) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		国語科内容総合研究 国語科科目研究(国語学・書写書道) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 読み・書き・計算のつまずきと支援 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	昌子 佳広 (55) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 国語科内容総合研究 国語科科目研究(国語学・書写書道) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	川嶋 秀之 (65) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		国語科科目研究(国語学・書写書道) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	荻原 文弘 (56) ＜令和3年4月＞ 理学修士
		算数科内容総合研究 数学科科目研究(代数学・幾何学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 課題探索演習 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	齋木 久美 (59) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		国語科内容総合研究 国語科科目研究(国語学・書写書道) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 読み・書き・計算のつまずきと支援 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	昌子 佳広 (56) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 国語科内容総合研究 国語科科目研究(国語学・書写書道) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	川嶋 秀之 (66) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		国語科科目研究(国語学・書写書道) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
		ことばの諸相と教育
兼任	教授	木村 勝彦 (60) ＜令和3年4月＞ 教育学修士※
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 社会科内容総合研究 社会科科目研究(社会と人間) 社会科科目研究(法律と政治) 社会科総合演習ⅠB 社会科総合演習ⅡB 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	村山 朝子 (62) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(歴史) 社会科科目研究(地理) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	小口 祐一 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 算数科内容総合研究 数学科科目研究(解析学・統計学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
		ことばの諸相と教育
兼任	教授	木村 勝彦 (60) ＜令和3年4月＞ 教育学修士※
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 社会科内容総合研究 社会科科目研究(社会と人間) 社会科科目研究(法律と政治) 社会科総合演習ⅠB 社会科総合演習ⅡB 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	村山 朝子 (62) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(歴史) 社会科科目研究(地理) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	小口 祐一 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 算数科内容総合研究 数学科科目研究(解析学・統計学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
		ことばの諸相と教育
兼任	教授	木村 勝彦 (61) ＜令和3年4月＞ 教育学修士※
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 社会科内容総合研究 社会科科目研究(社会と人間) 社会科科目研究(法律と政治) 社会科総合演習ⅠB 社会科総合演習ⅡB 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	村山 朝子 (63) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(歴史) 社会科科目研究(地理) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	小口 祐一 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 算数科内容総合研究 数学科科目研究(解析学・統計学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	梅津 健一郎 (56) ＜令和3年4月＞ 博士(数学)
		算数科内容総合研究 数学科科目研究(解析学・統計学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	教授	伊藤 孝 (56) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	教授	阿部 信一郎 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(水産学)
		理科内容総合研究 理科科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	梅津 健一郎 (56) ＜令和3年4月＞ 博士(数学)
		算数科内容総合研究 数学科科目研究(解析学・統計学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	教授	伊藤 孝 (56) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	教授	阿部 信一郎 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(水産学)
		理科内容総合研究 理科科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	梅津 健一郎 (57) ＜令和3年4月＞ 博士(数学)
		算数科内容総合研究 数学科科目研究(解析学・統計学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	教授	伊藤 孝 (57) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	教授	阿部 信一郎 (55) ＜令和3年4月＞ 博士(水産学)
		理科内容総合研究 理科科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	神部 智 (57) ＜令和3年4月＞ Ph.D (音楽学) (フィンランド)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究 (鑑賞) 音楽科総合演習 I 音楽科総合演習 II 芸術の言葉 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)
兼任	教授	谷川 佳幸 (56) ＜令和3年4月＞ 修士 (芸術学)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究 (表現)  音楽科総合演習 I 音楽科総合演習 II 時間と空間の表現世界 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)
兼任	教授	島田 裕之 (63) ＜令和3年4月＞ 修士 (芸術学)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究 (デザイン・工芸) 美術科総合演習 I 美術科総合演習 II 時間と空間の表現世界 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	神部 智 (57) ＜令和3年4月＞ Ph.D (音楽学) (フィンランド)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究 (鑑賞) 音楽科総合演習 I 音楽科総合演習 II 芸術の言葉 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)
兼任	教授	谷川 佳幸 (56) ＜令和3年4月＞ 修士 (芸術学)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究 (表現)  音楽科総合演習 I 音楽科総合演習 II 時間と空間の表現世界 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)
兼任	教授	島田 裕之 (64) ＜令和3年4月＞ 修士 (芸術学)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究 (デザイン・工芸) 美術科総合演習 I 美術科総合演習 II 時間と空間の表現世界 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	谷川 佳幸 (57) ＜令和3年4月＞ 修士 (芸術学)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究 (表現) <b>音楽科科目研究 (鑑賞)</b> 音楽科総合演習 I 音楽科総合演習 II 時間と空間の表現世界 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)
兼任	教授	島田 裕之 (65) ＜令和3年4月＞ 修士 (芸術学)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究 (デザイン・工芸) 美術科総合演習 I 美術科総合演習 II 時間と空間の表現世界 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	向野 康江 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(芸術学) 博士(学術)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 美術科科目研究(絵画・彫刻) 美術科科目研究(デザイン・工芸) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	甲斐 教行 (60) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究(絵画・彫刻) 美術科科目研究(デザイン・工芸) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 芸術の言葉 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	齋藤 芳徳 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究(デザイン・工芸) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 時間と空間の表現世界 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	向野 康江 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(芸術学) 博士(学術)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 美術科科目研究(絵画・彫刻) 美術科科目研究(デザイン・工芸) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	甲斐 教行 (60) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究(絵画・彫刻) 美術科科目研究(デザイン・工芸) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 芸術の言葉 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	齋藤 芳徳 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究(デザイン・工芸) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 時間と空間の表現世界 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	向野 康江 (62) ＜令和3年4月＞ 博士(芸術学) 博士(学術)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 美術科科目研究(絵画・彫刻) 美術科科目研究(デザイン・工芸) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	甲斐 教行 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究(絵画・彫刻) 美術科科目研究(デザイン・工芸) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 芸術の言葉 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	齋藤 芳徳 (60) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		図画工作科内容総合研究 美術科科目研究(デザイン・工芸) 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 時間と空間の表現世界 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	島 剛 (57) ＜令和3年4月＞ 芸術学修士
兼任	教授	富樫 泰一 (63) ＜令和3年4月＞ 体育学修士
兼任	教授	勝本 真 (62) ＜令和3年4月＞ 体育学修士

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	島 剛 (57) ＜令和3年4月＞ 芸術学修士
兼任	教授	富樫 泰一 (64) ＜令和3年4月＞ 体育学修士
兼任	教授	勝本 真 (62) ＜令和3年4月＞ 体育学修士

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	島 剛 (58) ＜令和3年4月＞ 芸術学修士
兼任	教授	富樫 泰一 (65) ＜令和3年4月＞ 体育学修士
兼任	教授	勝本 真 (63) ＜令和3年4月＞ 体育学修士

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	上地 勝 (51) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		佐々木 忠之 (63) ＜令和3年4月＞ 工学修士
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(エネルギー変換・情報) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		工藤 雄司 (61) ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(エネルギー変換・情報) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	上地 勝 (51) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		佐々木 忠之 (63) ＜令和3年4月＞ 工学修士
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(エネルギー変換・情報) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		工藤 雄司 (61) ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(エネルギー変換・情報) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	上地 勝 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		佐々木 忠之 (64) ＜令和3年4月＞ 工学修士
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(エネルギー変換・情報) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		工藤 雄司 (62) ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(エネルギー変換・情報) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	野崎 英明 (60) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		主體的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系) 技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	榊 守 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科科目研究(エネルギー変換・情報) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	木村 美智子 (63) ＜令和3年4月＞ 学術博士
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(生活環境分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	野崎 英明 (60) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		主體的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系) 技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	榊 守 (60) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科科目研究(エネルギー変換・情報) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	木村 美智子 (63) ＜令和3年4月＞ 学術博士
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(生活環境分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	野崎 英明 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		主體的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系) 技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	榊 守 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科科目研究(エネルギー変換・情報) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	木村 美智子 (64) ＜令和3年4月＞ 学術博士
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(生活環境分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	野中 美津枝 (60) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(人間生活分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	数井 みゆき (59) ＜令和3年4月＞ Ph.D(応用発達心理学) (米国)
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(人間生活分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 近代化と現代の生活問題 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	西川 陽子 (51) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(生活環境分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	野中 美津枝 (60) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(人間生活分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	数井 みゆき (60) ＜令和3年4月＞ Ph.D(応用発達心理学) (米国)
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(人間生活分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 近代化と現代の生活問題 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	西川 陽子 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(生活環境分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	野中 美津枝 (61) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(人間生活分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	数井 みゆき (61) ＜令和3年4月＞ Ph.D(応用発達心理学) (米国)
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(人間生活分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 近代化と現代の生活問題 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	教授	西川 陽子 (53) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(生活環境分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	君塚 淳一 (61) ＜令和3年4月＞ 文学修士※
		英語科科目研究(英語文学)  英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ 時間と空間の表現世界 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	教授	小川 哲哉 (63) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		学級力を高めるコミュニケーション 教師のライフステージと資質向上 校内研修の企画・立案と実践 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
兼担	教授	佐藤 環 (60) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
兼担	教授	神永 直美 (60) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	君塚 淳一 (61) ＜令和3年4月＞ 文学修士※
		英語科科目研究(英語文学)  英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ 時間と空間の表現世界 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	教授	小川 哲哉 (63) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		学級力を高めるコミュニケーション 教師のライフステージと資質向上 校内研修の企画・立案と実践 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
兼担	教授	佐藤 環 (61) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
兼担	教授	神永 直美 (61) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	君塚 淳一 (62) ＜令和3年4月＞ 文学修士※
		英語科科目研究(英語文学) <b>英語科内容総合研究</b> 英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ 時間と空間の表現世界 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	教授	小川 哲哉 (64) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		学級力を高めるコミュニケーション 教師のライフステージと資質向上 校内研修の企画・立案と実践 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
兼担	教授	佐藤 環 (62) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)
兼担	教授	神永 直美 (62) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		課題発見実習(学校運営コース) 課題発見実習(教育方法開発コース) 課題発見実習(児童生徒支援コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	荒川 智 (63) <令和3年4月> 教育学博士
		インクルーシブ教育の学校づくり 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)
		廣原 紀恵 (63) <令和3年4月> 修士(教育学)
兼任	教授	子どもの健康と生徒指導 学校における医学・看護学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
		古池 雄治 (57) <令和3年4月> 博士(医学)
		心とからだの発達と保健 学校における医学・看護学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	荒川 智 (63) <令和3年4月> 教育学博士
		インクルーシブ教育の学校づくり 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>
		廣原 紀恵 (63) <令和3年4月> 修士(教育学)
兼任	教授	子どもの健康と生徒指導 学校における医学・看護学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
		古池 雄治 (57) <令和3年4月> 博士(医学)
		心とからだの発達と保健 学校における医学・看護学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	荒川 智 (64) <令和3年4月> 教育学博士
		インクルーシブ教育の学校づくり 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>
		廣原 紀恵 (64) <令和3年4月> 修士(教育学)
兼任	教授	子どもの健康と生徒指導 学校における医学・看護学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
		古池 雄治 (58) <令和3年4月> 博士(医学)
		心とからだの発達と保健 学校における医学・看護学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	青柳 直子 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
兼任	教授	養護活動と健康増進科学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	教授	渡邊 雅彦 (60) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
兼任	教授	心とからだの発達と保健 臨床医学特論 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	教授	布施(長瀬) 泰子 (57) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
兼任	教授	心とからだの発達と保健 臨床医学特論 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	准教授	五島 浩一 (60) ＜令和3年4月＞ 教育学士
兼任	准教授	校内研修の企画・立案と実践 学校を基盤としたカリキュラム開発と実践

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	青柳 直子 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
兼任	教授	養護活動と健康増進科学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	教授	渡邊 雅彦 (60) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
兼任	教授	心とからだの発達と保健 臨床医学特論 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	教授	布施(長瀬) 泰子 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
兼任	教授	心とからだの発達と保健 臨床医学特論 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	教授	五島 浩一 (60) ＜令和3年4月＞ 教育学士
兼任	教授	校内研修の企画・立案と実践 学校を基盤としたカリキュラム開発と実践

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	青柳 直子 (53) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
兼任	教授	養護活動と健康増進科学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	教授	渡邊 雅彦 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
兼任	教授	心とからだの発達と保健 臨床医学特論 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	教授	布施(長瀬) 泰子 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
兼任	教授	心とからだの発達と保健 臨床医学特論 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	教授	五島 浩一 (61) ＜令和3年4月＞ 教育学士
兼任	教授	校内研修の企画・立案と実践 学校を基盤としたカリキュラム開発と実践



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	宮崎 尚子 (46) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 国語科内容総合研究 国語科科目研究(国文学・漢文学) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 近代化と現代の生活問題 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	中野 雅紀 (57) ＜令和3年4月＞ 博士(法学)
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(社会と人間) 社会科科目研究(法律と政治) 社会科総合演習ⅠB 社会科総合演習ⅡB 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	大島 規江 (47) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		学校における多様性の受容と活用 社会科内容総合研究 社会科科目研究(地理) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	宮崎 尚子 (46) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 国語科内容総合研究 国語科科目研究(国文学・漢文学) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 近代化と現代の生活問題 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	中野 雅紀 (57) ＜令和3年4月＞ 博士(法学)
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(社会と人間) 社会科科目研究(法律と政治) 社会科総合演習ⅠB 社会科総合演習ⅡB 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	大島 規江 (48) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		学校における多様性の受容と活用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	宮崎 尚子 (47) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 国語科内容総合研究 国語科科目研究(国文学・漢文学) 国語科総合演習Ⅰ 国語科総合演習Ⅱ 近代化と現代の生活問題 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	中野 雅紀 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(法学)
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(社会と人間) 社会科科目研究(法律と政治) 社会科総合演習ⅠB 社会科総合演習ⅡB 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	池庄司 規江 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		学校における多様性の受容と活用

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	栗原 博之 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		算数科内容総合研究 数学科科目研究(代数学・幾何学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	松村 初 (42) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		ICT活用とプログラミング 教育測定(評価)と校内研修 算数科内容総合研究 数学科科目研究(解析学・統計学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 読み・書き・計算のつまずきと支援 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	吉井 豊 (39) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系) 算数科内容総合研究 数学科科目研究(代数学・幾何学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 社会の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	栗原 博之 (51) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		算数科内容総合研究 数学科科目研究(代数学・幾何学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	松村 初 (42) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		ICT活用とプログラミング 教育測定(評価)と校内研修 算数科内容総合研究 数学科科目研究(解析学・統計学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 読み・書き・計算のつまずきと支援 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	吉井 豊 (39) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系) 算数科内容総合研究 数学科科目研究(代数学・幾何学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 社会の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	栗原 博之 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		算数科内容総合研究 数学科科目研究(代数学・幾何学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	松村 初 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		ICT活用とプログラミング 教育測定(評価)と校内研修 算数科内容総合研究 数学科科目研究(解析学・統計学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 読み・書き・計算のつまずきと支援 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	吉井 豊 (40) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系) 算数科内容総合研究 数学科科目研究(代数学・幾何学) 数学科総合演習Ⅰ 数学科総合演習Ⅱ 社会の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	梶田 孝晴 (53) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	郡司 晴元 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科研究(エネルギー・粒子) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	青島 政之 (48) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科研究(エネルギー・粒子) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	梶田 孝晴 (53) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	郡司 晴元 (53) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科研究(エネルギー・粒子) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	青島 政之 (48) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科研究(エネルギー・粒子) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	梶田 孝晴 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	郡司 晴元 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科研究(エネルギー・粒子) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	青島 政之 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科研究(エネルギー・粒子) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	永尾 敬一 (47) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		理科内容総合研究 理科学科目研究(エネルギー・粒子) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	上栗 伸一 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	藤田 文子 (63) ＜令和3年4月＞ 博士(人間科学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(表現) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	永尾 敬一 (47) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		理科内容総合研究 理科学科目研究(エネルギー・粒子) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	上栗 伸一 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	藤田 文子 (63) ＜令和3年4月＞ 博士(人間科学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(表現) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	永尾 敬一 (48) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		理科内容総合研究 理科学科目研究(エネルギー・粒子) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 自然現象の数理 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	上栗 伸一 (44) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科内容総合研究 理科学科目研究(生命・地球) 理科総合演習Ⅰ 理科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 防災を含む安全に関する教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼担	准教授	藤田 文子 (64) ＜令和3年4月＞ 博士(人間科学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(表現) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	山口 哲人 (52) ＜令和3年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(鑑賞) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ あそびに学ぶ-Communication with Imagination- 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		渡邊 将司 (42) ＜令和3年4月＞ 博士(体育科学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		中嶋 哲也 (38) ＜令和3年4月＞ 博士(スポーツ科学)
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	山口 哲人 (52) ＜令和3年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(鑑賞) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ あそびに学ぶ-Communication with Imagination- 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		渡邊 将司 (42) ＜令和3年4月＞ 博士(体育科学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		中嶋 哲也 (38) ＜令和3年4月＞ 博士(スポーツ科学)
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	山口 哲人 (53) ＜令和3年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(鑑賞) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ あそびに学ぶ-Communication with Imagination- 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		渡邊 将司 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(体育科学)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
		中嶋 哲也 (39) ＜令和3年4月＞ 博士(スポーツ科学)
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	篠田(上栗)明音 (44) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	臼坂 高司 (39) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	石島 恵美子 (54) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(生活環境分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	篠田(上栗)明音 (44) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	臼坂 高司 (40) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	石島 恵美子 (54) ＜令和3年4月＞ <b>博士(教育学)</b>
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(生活環境分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	篠田(上栗)明音 (45) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習Ⅰ 保健体育科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	臼坂 高司 (41) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		技術科内容総合研究 技術科科目研究(材料と加工・生物育成) 技術科総合演習Ⅰ 技術科総合演習Ⅱ 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	准教授	石島 恵美子 (55) ＜令和3年4月＞ <b>博士(教育学)</b>
		家庭科内容総合研究 家庭科科目研究(生活環境分野) 家庭科総合演習Ⅰ 家庭科総合演習Ⅱ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ 茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	齋藤 英敏 (54) ＜令和3年4月＞ Ph.D (教育学) (米国)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 学校における多様性の受容と活用 英語科内容総合研究 英語科科目研究 (英語学)
兼担	准教授	英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA (教科領域コース) 教材開発実習ⅡA (教科領域コース) 教材開発実習ⅠB (教科領域コース) 教材開発実習ⅡB (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)
		小林 祐紀 (40) ＜令和3年4月＞ 修士 (教育学)
兼担	准教授	学習指導・学習評価の課題と方法 教育カウンセリング実践と事例研究
		細川(藤川)美由紀 (47) ＜令和3年4月＞ 博士 (心身障害学)
兼担	准教授	発達障害児の理解と支援 知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ 知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA (特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA (特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB (特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB (特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (特別支援科学コース)
		特別支援教育総合演習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	齋藤 英敏 (54) ＜令和3年4月＞ Ph.D (教育学) (米国)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 学校における多様性の受容と活用 英語科内容総合研究 英語科科目研究 (英語学)
兼担	准教授	英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA (教科領域コース) 教材開発実習ⅡA (教科領域コース) 教材開発実習ⅠB (教科領域コース) 教材開発実習ⅡB (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)
		小林 祐紀 (40) ＜令和3年4月＞ 修士 (教育学)
兼担	准教授	学習指導・学習評価の課題と方法 教育カウンセリング実践と事例研究
		細川(藤川)美由紀 (48) ＜令和3年4月＞ 博士 (心身障害学)
兼担	准教授	発達障害児の理解と支援 知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ 知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA (特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA (特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB (特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB (特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (特別支援科学コース)
		特別支援教育総合演習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	齋藤 英敏 (55) ＜令和3年4月＞ Ph.D (教育学) (米国)
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 学校における多様性の受容と活用 英語科内容総合研究 英語科科目研究 (英語学) <b>英語科科目研究 (英語文学)</b>
兼担	准教授	英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA (教科領域コース) 教材開発実習ⅡA (教科領域コース) 教材開発実習ⅠB (教科領域コース) 教材開発実習ⅡB (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)
		小林 祐紀 (41) ＜令和3年4月＞ 修士 (教育学)
兼担	准教授	学習指導・学習評価の課題と方法 教育カウンセリング実践と事例研究
		細川(藤川)美由紀 (49) ＜令和3年4月＞ 博士 (心身障害学)
兼担	准教授	発達障害児の理解と支援 知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ 知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA (特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA (特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB (特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB (特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習 (特別支援科学コース)
		特別支援教育総合演習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	田原 敬 (36) ＜令和3年4月＞ 博士(障害科学)
		感覚障害児のアセスメントと支援 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 読み・書き・計算のつまずきと支援 特別支援教育教材開発実習 I 特別支援教育教材開発実習 II 特別支援教育アセスメント実習 I 特別支援教育アセスメント実習 II 特別支援教育ケースカンファレンス実習 I 特別支援教育ケースカンファレンス実習 II 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習 I A (特別支援科学コース) 教材開発実習 II A (特別支援科学コース) 教材開発実習 I B (特別支援科学コース) 教材開発実習 II B (特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)
兼担	講師	大津 展子 (42) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)※
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習 I 保健体育科総合演習 II 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	田原 敬 (36) ＜令和3年4月＞ 博士(障害科学)
		感覚障害児のアセスメントと支援 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 読み・書き・計算のつまずきと支援 特別支援教育教材開発実習 I 特別支援教育教材開発実習 II 特別支援教育アセスメント実習 I 特別支援教育アセスメント実習 II 特別支援教育ケースカンファレンス実習 I 特別支援教育ケースカンファレンス実習 II 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習 I A (特別支援科学コース) 教材開発実習 II A (特別支援科学コース) 教材開発実習 I B (特別支援科学コース) 教材開発実習 II B (特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>
兼担	講師	大津 展子 (42) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)※
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習 I 保健体育科総合演習 II 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	田原 敬 (37) ＜令和3年4月＞ 博士(障害科学)
		感覚障害児のアセスメントと支援 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 読み・書き・計算のつまずきと支援 特別支援教育教材開発実習 I 特別支援教育教材開発実習 II 特別支援教育アセスメント実習 I 特別支援教育アセスメント実習 II 特別支援教育ケースカンファレンス実習 I 特別支援教育ケースカンファレンス実習 II 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習 I A (特別支援科学コース) 教材開発実習 II A (特別支援科学コース) 教材開発実習 I B (特別支援科学コース) 教材開発実習 II B (特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>
兼担	講師	大津 展子 (43) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)※
		体育科内容総合研究 保健体育科科目研究(保健・体育学) 保健体育科科目研究(運動学) 保健体育科総合演習 I 保健体育科総合演習 II 教科領域実習 I 教科領域実習 II 教科領域実習 III 教材開発実習 I A (教科領域コース) 教材開発実習 II A (教科領域コース) 教材開発実習 I B (教科領域コース) 教材開発実習 II B (教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	安原 正貴 (34) ＜令和3年4月＞ 博士(言語学)
		英語科科目研究(英語学)  英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ ことばの諸相と教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	講師	竹下(七木田) 智美 (43) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)※
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 養護活動と健康増進科学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	助教	新谷 崇 (44) ＜令和3年4月＞ Ph.D(歴史学) (イタリア)
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(歴史) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA 近代化と現代の生活問題 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	安原 正貴 (34) ＜令和3年4月＞ 博士(言語学)
		英語科科目研究(英語学)  英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ ことばの諸相と教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	講師	竹下(七木田) 智美 (43) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)※
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 養護活動と健康増進科学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	助教	新谷 崇 (44) ＜令和3年4月＞ Ph.D(歴史学) (イタリア)
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(歴史) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA 近代化と現代の生活問題 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	安原 正貴 (35) ＜令和3年4月＞ 博士(言語学)
		英語科科目研究(英語学) <b>英語科内容総合研究</b> 英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ ことばの諸相と教育 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	講師	竹下(七木田) 智美 (44) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)※
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ 養護活動と健康増進科学 養護科学課題発見演習 養護科学課題分析演習 養護科学課題解決演習 養護科学実習Ⅰ 養護科学実習Ⅱ 養護科学実習Ⅲ 養護科学実習Ⅳ 教材開発実習ⅠA(養護科学コース) 教材開発実習ⅠB(養護科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)
兼任	助教	新谷 崇 (45) ＜令和3年4月＞ Ph.D(歴史学) (イタリア)
		社会科内容総合研究 社会科科目研究(歴史) 社会科総合演習ⅠA 社会科総合演習ⅡA 近代化と現代の生活問題 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	門脇(稲吉)早聴子 (37) ＜令和3年4月＞ 博士(音楽)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系) 音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(鑑賞) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	助教	小口 あや (42) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系) 図画工作科内容総合研究 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	助教	小林 翔 (38) ＜令和3年4月＞ 修士(外国語教育学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系) 英語科内容総合研究 英語科科目研究(英語文学) 英語科総合演習Ⅰ 英語科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	助教	今泉(山垣)友里 (38) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		茨城の教育改革と開かれた学校づくり 校内研修の企画・立案と実践

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	門脇(稲吉)早聴子 (37) ＜令和3年4月＞ 博士(音楽)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系) 音楽科内容総合研究 音楽科科目研究(鑑賞) 音楽科総合演習Ⅰ 音楽科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	助教	小口 あや (42) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系) 図画工作科内容総合研究 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	助教	
兼任	助教	今泉(山垣)友里 (39) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		茨城の教育改革と開かれた学校づくり 校内研修の企画・立案と実践

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	小口 あや (43) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系) 図画工作科内容総合研究 美術科総合演習Ⅰ 美術科総合演習Ⅱ 教科領域実習Ⅰ 教科領域実習Ⅱ 教科領域実習Ⅲ 教材開発実習ⅠA(教科領域コース) 教材開発実習ⅡA(教科領域コース) 教材開発実習ⅠB(教科領域コース) 教材開発実習ⅡB(教科領域コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)
兼任	助教	
兼任	助教	今泉(山垣)友里 (40) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)※
		茨城の教育改革と開かれた学校づくり 校内研修の企画・立案と実践

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	石田 修 (35) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		発達障害児の理解と支援 特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)
兼任	講師	増子 和男 (67) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		国語科科目研究(国文学・漢文学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	石田 修 (35) ＜令和3年4月＞ <b>博士(障害科学)</b>
		発達障害児の理解と支援 特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>
兼任	講師	増子 和男 (67) ＜令和3年 <b>9月</b> ＞ 博士(文学)
		国語科科目研究(国文学・漢文学)
兼任	講師	<b>照屋 翔太</b> (39) ＜令和3年4月＞ <b>修士(教育学)※</b>
		教育政策の実施と評価 教育行財政と法規 学校危機管理理論と実践演習
兼任	講師	<b>猪井 新一</b> (65) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	石田 修 (36) ＜令和3年4月＞ <b>博士(障害科学)</b>
		発達障害児の理解と支援 特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス 特別支援教育課題発見演習 特別支援教育課題分析演習 特別支援教育課題解決演習 特別支援教育教材開発実習Ⅰ 特別支援教育教材開発実習Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ 特別支援教育アセスメント実習Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ 特別支援教育授業改善実習 教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース) 教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース) 子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース) <b>特別支援教育総合演習</b>
兼任	講師	増子 和男 (68) ＜令和3年 <b>9月</b> ＞ 博士(文学)
		国語科科目研究(国文学・漢文学)
兼任	講師	<b>猪井 新一</b> (66) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系)
兼任	講師	<b>丸山 広人</b> (50) ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		学級経営と個別指導の実践 教育カウンセリング実践と事例研究 子ども理解と学習支援

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	神部 智 (58) ＜令和4年4月＞ Ph.D (音楽学) (フィンランド) 芸術の言葉
兼任	講師	門脇（稲吉）早穂子 (38) ＜令和4年4月＞ 博士（音楽） 主体的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

准教授 照屋翔太退職。同氏を兼任として採用。令和3年4月に照屋の後任として助教 高野貴大を採用。 准教授 大西有 令和3年4月教授昇進。
---

【令和4年度】

教授 豊田昌幸退職。令和4年4月に豊田の後任として教授 鈴木稔を採用。 教授 永田博退職。令和4年4月に永田の後任として教授 長谷川真人を採用。 准教授 開田晃央退職。令和4年4月に開田の後任として准教授 小林伸彦を採用。 准教授 丸山広人退職。同氏を兼任として採用。
---

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。  
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数
13 名	7 名	6 名

(注) ・ 専門職大学院に関し必要な事項について定める件(平成十五年三月三十一日文科科学省告示第五十三号)及び大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文科省告示第七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【専門職大学院】

設置時の計画						現在(報告時)の状況									
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')				
16	8	0	2	26	0	17	5	0	3	25	0				
(17)	(6)	(0)	(3)	(26)	(0)										
研究者教員数		実務家教員数		みなし専任教員数		講義のみ担当の教員数		研究者教員数		実務家教員数		みなし専任教員数		講義のみ担当の教員数	
18		8		0		0		17		8		0		0	
(18)		(8)		0		(0)									
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画									
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')				
17	5	0	3	25	0	17	5	0	3	25	0				
[ 1 ]	[ Δ3 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ Δ1 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ Δ3 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ Δ1 ]	[ 0 ]				
研究者教員数		実務家教員数		みなし専任教員数		講義のみ担当の教員数		研究者教員数		実務家教員数		みなし専任教員数		講義のみ担当の教員数	
17		8		0		0		17		8		0		0	
[ Δ1 ]		[ 0 ]		[ 0 ]		[ 0 ]		[ Δ1 ]		[ 0 ]		[ 0 ]		[ 0 ]	

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)  
 ・ 「みなし専任教員数」には、「実務家教員数」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を計上してください。

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{25}{26} = \boxed{96.15} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	照屋 翔太	R2.9	選択	校内研修の企画・立案と実践	①	R2.9 退職のため就任辞退(3)			
				選択	教育政策の実施と評価	②				
				選択	教育行財政と法規	②				
				選択	学校危機管理論と実践演習	②				
				選択	学校運営課題研究Ⅰ	①				
				選択	学校運営課題研究Ⅱ	①				
				選択	学校運営課題研究Ⅲ	①				
				選択	学校運営課題研究Ⅳ	①				
				選択	学校運営実践研究Ⅰ	①				
				選択	学校運営実践研究Ⅱ	①				
				選択	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	②				
				選択	学校運営実習Ⅰ	①				
				選択	学校運営実習Ⅱ	①				
				選択	課題発見実習(学校運営コース)	①				
				選択	課題発見実習(教育方法開発コース)	①				
				選択	課題発見実習(児童生徒支援コース)	①				
				選択	教育行財政と法規	②				
合計(D)				後任補充状況の集計(E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	16	科目	選択	12	科目	選択	4	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	16	科目	計	12	科目	計	4	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	豊田 昌幸	R4.3	必修	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	①	R4.3.31付け退職のため辞任(4)
				必修	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	①	
				選択	授業研究の方法と実践	①	
				必修	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	①	
				選択	教育政策の実施と評価	①	
				選択	学校危機管理論と実践演習	①	
				選択	学校における評価マネジメント実践演習	①	
				選択	学校運営課題研究Ⅰ	①	
				選択	学校運営課題研究Ⅱ	①	
				選択	学校運営課題研究Ⅲ	①	
				選択	学校運営課題研究Ⅳ	①	
				選択	学校運営実践研究Ⅰ	①	
				選択	学校運営実践研究Ⅱ	①	
				選択	学校運営実習Ⅰ	①	
				選択	学校運営実習Ⅱ	①	
				選択	課題発見実習(学校運営コース)	①	
				選択	課題発見実習(教育方法開発コース)	①	
選択	課題発見実習(児童生徒支援コース)	①					
2	教授	永田 博	R4.3	選択	学校マネジメント実践演習	①	R4.3.31付け退職のため辞任(4)
				選択	教師のライフステージと資質向上	①	
				選択	校内研修の企画・立案と実践	①	
				選択	教育行財政と法規	①	
				選択	スクール・リーダーシップとその実践	①	
				選択	学校運営課題研究Ⅰ	①	
				選択	学校運営課題研究Ⅱ	①	
				選択	学校運営課題研究Ⅲ	①	
				選択	学校運営課題研究Ⅳ	①	
				選択	学校運営実践研究Ⅰ	①	
				選択	学校運営実践研究Ⅱ	①	
				選択	人間形成の現代的課題と学習指導	①	
				選択	学校運営実習Ⅰ	①	
				選択	学校運営実習Ⅱ	①	
				選択	課題発見実習(学校運営コース)	①	
				選択	課題発見実習(教育方法開発コース)	①	
				選択	課題発見実習(児童生徒支援コース)	①	

3	准教授	開田 晃央	R4.3	選択	教育相談の課題と支援	①	R4.3.31付け退職のため辞任(4)						
				選択	学級経営実践演習	①							
				選択	校内研修の企画・立案と実践	①							
				選択	学校不適応問題への理解と対応	①							
				選択	学級経営と個別指導の実践	①							
				選択	学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法	①							
				選択	児童生徒支援課題研究Ⅰ	①							
				選択	児童生徒支援課題研究Ⅱ	①							
				選択	児童生徒支援課題研究Ⅲ	①							
				選択	児童生徒支援課題研究Ⅳ	①							
				選択	児童生徒支援実践研究Ⅰ	①							
				選択	児童生徒支援実践研究Ⅱ	①							
				選択	教育臨床問題と道徳	①							
				選択	子ども理解と学習支援	①							
				選択	児童生徒支援実習	①							
				選択	学校適応アセスメント実習	①							
				選択	学校適応支援実習	①							
				選択	課題発見実習(学校運営コース)	①							
				選択	課題発見実習(教育方法開発コース)	①							
				選択	課題発見実習(児童生徒支援コース)	①							
4	准教授	丸山 広人	R4.3	選択	学級経営と個別指導の実践	②	R4.3.31付け退職のため辞任(4)						
				選択	児童生徒支援課題研究Ⅰ	①							
				選択	児童生徒支援課題研究Ⅱ	①							
				選択	児童生徒支援課題研究Ⅲ	①							
				選択	児童生徒支援課題研究Ⅳ	①							
				選択	児童生徒支援実践研究Ⅰ	①							
				選択	児童生徒支援実践研究Ⅱ	①							
				選択	教育カウンセリング実践と事例研究	②							
				選択	子ども理解と学習支援	②							
				選択	児童生徒支援実習	①							
				選択	学校適応アセスメント実習	①							
				選択	学校適応支援実習	①							
				選択	課題発見実習(学校運営コース)	①							
				選択	課題発見実習(教育方法開発コース)	①							
必修	課題発見実習(児童生徒支援コース)	①											
合計(F)			後任補充状況の集計(G)										
辞任した教員数			担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)				
4	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	66	科目	選択	63	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	70	科目	計	67	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)										
辞任等した教員数			担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)				
5	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	82	科目	選択	75	科目	選択	7	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	86	科目	計	79	科目	計	7	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{5}{26} = 19.23\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

4人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。



(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE! 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「大学の所見」                  担当していた科目は、後任の専任教員が担当または複数の専任教員が共同で担当している科目のため、学生の履修等に影響はない。                  「学生への周知方法」                  履修要項に掲載するとともに、不足の情報は新入生ガイダンス、掲示及び教務情報ポータルシステムにおいて周知した。</p>
---

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>特別支援科学コース及び養護科学コースについて、専任の実務家教員が配置されていないため、実践的指導力の育成を担う兼任教員への過度な負担が生じることのないよう、専任教員を中心とした教育体制の更なる充実に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>特別支援科学コースは現場指導歴10年の助教教員を新規に採用【5(1)-①兼任 石田修】した。養護科学コースは養護教諭及び医師経験を有する多様な実務経験をもつ兼任教員が3名いる。専任教員は教育学研究科委員会専門委員会や教育学研究科教育実践高度化専攻実習連絡協議会の構成員となり、教職大学院に関わる業務に主体的に携わることとしており、別紙に示すとおり専任教員の役割を明確化することで兼任教員に対する過度の負担とならないように配慮されている(茨城大学大学院教育学研究科委員会専門委員会内規及び教育学研究科教育実践高度化専攻実習連絡協議会内規を改正)。</p> <p>履行済</p>
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>教職大学院の授業科目の中で兼任教員が担当する単位数の基準を示すなど、兼任教員の負担が過度にならないよう配慮することが望ましい。(助言事項)</p>	<p>改善事項</p>	<p>修士課程で担当してきた授業科目数を勘案し、実習科目を除いた科目については12単位程度を基準とする。多くの授業はTTであり、コーディネーター役から外れたり、専任教員は教育学研究科委員会専門委員会や教育学研究科教育実践高度化専攻実習連絡協議会の構成員となり、教職大学院に関わる業務に主体的に携わることとしており、このように専任教員の役割を明確化することで兼任教員に対する過度の負担とならないように配慮されている(茨城大学大学院教育学研究科委員会専門委員会内規及び教育学研究科教育実践高度化専攻実習連絡協議会内規を改正)。</p> <p>履行済</p>
<p>設置計画履行状況 調査結果 (令和3年)</p>	<p>該当なし</p>		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<教育学研究科 教育実践高度化専攻>

(1) 設置計画変更事項等 「該当なし」

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況  
専門委員会内に教務点検専門部会を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）  
教務点検専門委員会は、月1回の開催とし、6名の専任教員で構成されている。

c 委員会の審議事項等

- ・ 認証評価について
- ・ 留学について
- ・ 他大学院取得単位の単位認定について
- ・ FDの実施について
- ・ シラバスチェックについて
- ・ 内部質保証について

② 実施状況

a 実施内容  
以下の事項に関するFDを行った。

- ・ カリキュラム全般、実習科目
- ・ 茨城県教育委員会、茨城県教育研修センター等の学外教育機関との連携
- ・ 実習科目（融合実習）の事例
- ・ 実習科目の振り返りと実習計画

b 実施方法  
オンラインで実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）  
令和3年度は、第1回（R3.10.20）、第2回（R4.2.16）、第3回（R4.3.16）の三回にわたり開催した。  
参加状況は、第1回は72名、第2回は50名、第3回は79名となっている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況  
FD等で検討結果を踏まえて、授業改善に取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期  
各学期終了後に授業評価アンケートを実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等  
実施した授業アンケートの結果は授業担当者にWEB公開している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）



(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

設置計画書からの変更を行い、教育課程連携協議会の重要性に鑑み、実務家1名を構成員から外し、新たに実習協力校のある市町村教育委員会教育長、教育実践高度化専攻各コース主任を構成員とする。これによって当該専攻の運営についてより有益な意見交換と改善の指針ができる。

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

令和3年度は、令和3年7月16日に開催した。

c 委員会の審議事項等

- ・教育関係者との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- ・教育関係者との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項
- ・その他教育実践高度化専攻の教育課程及び教員養成に関し必要な事項

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

- ・教育実践高度化専攻改組におけるカリキュラム編成について
- ・新型コロナウイルス感染症状況における実習のありかたについて

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

カリキュラムマネジメントに関わる科目を6コース必修として共通科目に位置づけていることについて高評価をえたため、その内容の充実をさらに図るべく検討を開始した。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

新型コロナウイルス感染症への対応として実習の代替措置を実施した。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

令和3年度の入学者の状況は、定員43名が入学者40名で3名の不足が生じたが、授業科目の開講、教員配置、連携協力校の設定等は計画どおりに進行している。目的の達成状況については、現時点で評価することは困難であるが、概ね設置計画の趣旨に基づき順調に実施している。また、計画書の基本方針・計画の考え方に基づきながら、委員会の内規等の改正を進めると共に、新たに専門部会の発足を行い、基本的に計画書に沿って取り組んでいる。さらに、計画書の基本的趣旨を一層前進させるため、教育課程連携協議会の構成員の変更を検討している。

令和4年度の入学者の状況は、定員43名が入学者39名で4名の不足、専任教員に1名の欠員が生じたが、授業科目の開講、連携協力校の設定等は計画どおりに進行している。目的の達成状況については、今年度が完成年度のため修了者がいないことから現時点で評価することは困難であるが、概ね設置計画の趣旨に基づき順調に実施している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

1年間の実績をもとに評価すべきと考えており、7月頃を予定している。

b 公表方法

公表する場合は、大学ホームページあるいは教育学研究科のホームページ上に公開する。

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

教職大学院の認証評価は令和6年度を目途に受審予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・  その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

## 設置計画履行状況報告書・補足説明資料（教職大学院）

茨城大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻  
【教職大学院】

国立大学法人 茨城大学  
令和4年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局（課）名 総務部総務課

職名・氏名 ホウキカカリチヨウリエトシユキ  
法規係長 堀江利行

電話番号 029-228-8009

（夜間） 029-228-8035

e-mail iba-houki@ml.ibaraki.ac.jp



# 目次

茨城大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻

1	調査対象研究科等の令和4年度入学者・在学者の状況	1
2	既存の教員養成系修士課程の状況	7
3	設置の趣旨等を記載した書類の履行状況	9
4	教育委員会等との調整内容の履行状況	25

1 調査対象研究科等の令和4年度入学者・在学者の状況

① 調査対象研究科等の令和4年度入学者の状況

(学校運営コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	茨城県 教育委員会	4	1	2					7	
										0	
	派遣制度以外									0	
										0	
										0	
小 計		0	4	1	2	0	0	0	0	7	
学部新卒学生											
その他(社会人等)											
合 計										7	

(教育方法開発コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	茨城県 教育委員会	2							2	
										0	
	派遣制度以外									0	
										0	
										0	
小 計		0	2	0	0	0	0	0	0	2	
学部新卒学生			2		2		1			2	
その他(社会人等)											
合 計										4	

(児童生徒支援コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	茨城県 教育委員会		1						1	
										0	
	派遣制度以外									0	
										0	
										0	
小 計		0	1	0	0	0	0	0	0	1	
学部新卒学生		1	1		1					1	
その他(社会人等)											
合 計										2	

(教科領域コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	茨城県 教育委員会					1			1		
										0		
	派遣制度以外	茨城大学教 育学部附属 学校				1					1	
											0	
											0	
小 計		0	0	0	1	0	1	0	0	2		
学部新卒学生		2	14		17		16			17		
その他(社会人等)												
合 計										19		

(特別支援科学コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	茨城県 教育委員会						1		1	
										0	
	派遣制度以外									0	
										0	
										0	
小 計		0	0	0	0	0	0	1	0	1	
学部新卒学生		2	5		5		4	5		5	
その他(社会人等)											
合 計										6	

(養護科学コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度									0	
										0	
	派遣制度以外									0	
										0	
										0	
小 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
学部新卒学生									1	1	その他1名の内訳 ・養護教諭免許状取得 者 1名
その他(社会人等)											
合 計										1	

- (注)・ コースや領域・プログラム等, 最小単位の区分ごとに表を作成してください。
- ・ 黄色セル部分は自動計算されますので, 手入力しないでください。
  - ・ 現職教員については, 現在所属する, 休業・退職している場合は入学直前に所属していた学校種に基づいて計上してください。
  - ・ 現職教員の区分は, 各大学の実態に合わせて, 適宜追加・削除してください。
  - ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を複数所持している場合は, 該当する校種(幼稚園～特別支援学校)の区分全てに記入し, 「計」欄には実数を記入してください。
  - ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を所持していない場合は, 「その他」に計上し, 備考欄にその旨が分かるように記載してください。
  - ・ 現職教員・学部新卒学生・その他(社会人等)のいずれについても, 「その他」に分類される院生がいる場合は, 具体的な内訳を備考欄に記載してください。

② 調査対象研究科等の令和4年度在学者の状況  
(学校運営コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	茨城県 教育委員会	5	1	8					14	
										0	
	派遣制度以外									0	
										0	
										0	
小 計		0	5	1	8	0	0	0	0	14	
学部新卒学生											
その他(社会人等)											
合 計										14	

(教育方法開発コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	茨城県 教育委員会	3							3	
										0	
	派遣制度以外									0	
										0	
										0	
小 計		0	3	0	0	0	0	0	0	3	
学部新卒学生			6		6		5			6	
その他(社会人等)											
合 計										9	

(児童生徒支援コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	茨城県 教育委員会		2						2	
										0	
	派遣制度以外									0	
										0	
										0	
小 計		0	2	0	0	0	0	0	0	2	
学部新卒学生		2	4		4		1			4	
その他(社会人等)											
合 計										6	

(教科領域コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	茨城県 教育委員会			1		1			2		
										0		
	派遣制度以外	茨城大学教 育学部附属 学校				1					1	
											0	
											0	
小 計		0	0	0	2	0	1	0	0	3		
学部新卒学生		3	25		36		37			34		
その他(社会人等)												
合 計										37		

(特別支援科学コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学校	中学校	中等教育 学校	高校	特別支援 学校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	茨城県 教育委員会						2		2		
										0		
	派遣制度以外	茨城大学教 育学部附属 学校							1		1	
											0	
											0	
小 計		0	0	0	0	0	0	3	0	3		
学部新卒学生		3	6		5		4	6		6		
その他(社会人等)												
合 計										9		

(養護科学コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学校	中学校	中等教育 学校	高校	特別支援 学校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度									0		
										0		
	派遣制度以外										0	
											0	
											0	
小 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
学部新卒学生					2		2		4	4	その他4名の内訳 ・養護教諭免許状取得 者 4名	
その他(社会人等)												
合 計										4		

(注)・ コースや領域・プログラム等、最小単位の区分ごとに表を作成してください。

- ・ 黄色セル部分は自動計算されますので、手入力しないでください。
- ・ 現職教員については、現在所属する、休業・退職している場合は入学直前に所属していた学校種に基づいて計上してください。
- ・ 現職教員の区分は、各大学の実態に合わせて、適宜追加・削除してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を複数所持している場合は、該当する校種(幼稚園～特別支援学校)の区分全てに記入し、「計」欄には実数を記入してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を所持していない場合は、「その他」に計上し、備考欄にその旨が分かるように記載してください。
- ・ 現職教員・学部新卒学生・その他(社会人等)のいずれについても、「その他」に分類される院生がいる場合は、具体的な内訳を備考欄に記載してください。

## 2 既存の教員養成系修士課程の状況

【教育学研究科障害児専攻(M)】

(単位:人)

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	3	0	—	令和3年度から学生募集停止
		派遣制度以外	0	0	—	
		小計(a)	3	0	—	
	学部新卒学生(b)		2	2	—	—
	その他(社会人等)(c)		0	1	—	—
	計(d=a+b+c)		5	3	—	—
入学定員(e)		3	3	—	—	
定員超過率(d/e)		167%	100%	—	—	

【教育学研究科教科教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	0	1	—	令和3年度から学生募集停止
		派遣制度以外	0	1	—	
		小計(a)	0	2	—	
	学部新卒学生(b)		15	20	—	—
	その他(社会人等)(c)		0	1	—	—
	計(d=a+b+c)		15	23	—	—
入学定員(e)		22	22	—	—	
定員超過率(d/e)		68%	105%	—	—	

【教育学研究科養護教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	0	0	—	令和3年度から学生募集停止
		派遣制度以外	0	0	—	
		小計(a)	0	0	—	
	学部新卒学生(b)		2	3	—	—
	その他(社会人等)(c)		2	0	—	—
	計(d=a+b+c)		4	3	—	—
入学定員(e)		3	3	—	—	
定員超過率(d/e)		133%	100%	—	—	



【教育学研究科学校臨床心理専攻(M)】

(単位:人)

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備 考
入 学 者 数	現職教員					令和3年度から学生募集停止
	派遣制度	1	2	—	—	
	派遣制度以外	0	0	—	—	
	小計(a)	1	2	—	—	
	学部新卒学生(b)	6	6	—	—	
	その他(社会人等)(c)	2	0	—	—	
	計(d=a+b+c)	9	8	—	—	
	入学定員(e)	9	9	—	—	
	定員超過率(d/e)	100%	89%	—	—	

(注)・本表は既存の教員養成系修士課程における全ての専攻について作成してください。

必要に応じて表を追加してください。

- ・黄色セル部分は自動計算されますので、手入力しないでください。
- ・学生募集停止中の研究科・専攻等については、「—」を記入するとともに、「備考」に「平成〇年度から学生募集停止」と記入してください。

### 3 設置の趣旨等を記載した書類の履行状況

① 設置の趣旨及び必要性

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 教育上の理念、目的</p> <p>近年、我が国における少子・高齢化の進行、そして世界のグローバル化や情報化といった社会の急激な変化や複雑化に対応できる教員が求められている。茨城県でも「いばらき教育プラン」の中で基本テーマとして「一人一人が輝く教育立県を目指して～子どもたちの自主性・自立性を育もう～」を掲げている。すなわち、茨城県では多様性のある子どもたちへの対応が課題となっており、すべての子どもたちに一人ひとり主体的で対話的な深い学びを実現させていくことが学校や教員に求められる責務である。</p> <p>そこで、茨城大学教職大学院(教育実践高度化専攻)における指導理念(コンセプト)を、「地域とともに“多様な子ども”に対する教育実践を高度化する教職大学院」とし、その目的を「誰も置き去りにしない、すべての子どもの力を伸ばす教員を養成すること」とした。</p> <p>以上の目的を達成するために、以下のような教員の養成を行う。</p> <p>① すべての子どもに対して「主体的・対話的で深い学び」を展開できる教員。</p> <p>② 多様な子どもを深く理解し、実践につなげていくことができる教員。</p> <p>③ 地域の教育的課題を知り、協働して課題解決に取り組むことができる教員。</p> <p>以上のような人材を養成するため、3つの資質・能力を身に付けた者に修了を認定し、教職修士(専門職)の学位を授与することとした。身につけさせる3つの能力とは、以下のとおりである。</p> <p>① 子どもを深く理解できる力(子どもの諸能力・技能を多面的に評価するとともに、子どもの願いや苦悩に寄り添い、またその背景にある環境にも目を配りながら、子どもの真の学習ニーズを理解できる力)</p> <p>② 広い視野(社会の変化やニーズと子どもの実態を踏まえながら、同僚や様々な人と協働し、学際的・多面的な広い視野で教育上の課題を探究できる力)</p> <p>③ 深い専門性(子ども理解や広い視野に基づく教育上の課題と自分の専門分野を結び付けて、その課題解決のための方法をさらに深く追究できる力)</p> <p>イ どのような教員を養成するのか。</p> <p>具体的には、目的に応じて以下のようにコース別で教員を養成する計画である。</p> <p>「学校運営コース」</p> <p>「学校運営コース」は、原則として10年以上の教職経験をもつ現職教員を対象としている。「学校運営コース」ではディプロマ・ポリシーに挙げた身に付けさせる3つの資質・能力を以下のように考える。</p> <p>1) 子どもを深く理解できる力(子ども支援組織構築のリーダーシップ)</p> <p>2) 広い視野(教育政策を踏まえたビジョン形成力)</p> <p>3) 深い専門性(学校マネジメントの深い専門性)</p> <p>本コースに派遣される現職教員は、これまでの学校現場での経験を通して、自身が授業改善を図ったり、校務分掌上の役割を遂行したりする基本的な力は備わっている。しかし、学校の多様な課題に対応する力が一層求められている状況を踏まえ、若手や他の教員に対する指導力や組織として課題解決を推進するマネジメントとしての力量も求められてくる。そこで、子どもたちの有する問題状況を把握し、支援するための組織として課題解決を遂行するリーダーシップを発揮できる力と、教育政策を踏まえたうえで学校に必要となる課題解決のための道筋を明示し、その進むべき方向性が明らかとなる学校ビジョンを形成する力を身に付けるとともに、これらを根底において支える学校マネジメントの本質的な理解を深めることにより、スクールリーダーとして学校づくりに貢献できる教員を養成する。</p> <p>「教育方法開発コース」</p> <p>「教育方法開発コース」は、学部新卒学生と現職教員を対象としている。「教育方法開発コース」ではディプロマ・ポリシーに挙げた身に付けさせる3つの資質・能力を以下のように考える。</p> <p>1) 子どもを深く理解できる力(児童生徒の学習状況の把握、多面的な児童生徒理解)</p> <p>2) 広い視野(今日の社会と求められる資質・能力、授業像の理解)</p> <p>3) 深い専門性(授業設計と指導方法、授業研究に関する深い専門性)</p>	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>・茨城大学ホームページ(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)参照</p> <p><a href="https://www.ibaraki.ac.jp/education/policy/gs_education/gs_professional/index.html">https://www.ibaraki.ac.jp/education/policy/gs_education/gs_professional/index.html</a></p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>・教育学研究科ホームページ参照</p> <p><a href="http://www.ppedu.ibaraki.ac.jp/course/">http://www.ppedu.ibaraki.ac.jp/course/</a></p> <p>・教職大学院案内(資料1:p.1~24)</p> <p><a href="http://www.ppedu.ibaraki.ac.jp/images/2023pamphlet.pdf">http://www.ppedu.ibaraki.ac.jp/images/2023pamphlet.pdf</a></p>

## 茨城大学教職大学院

教職大学院での履修を通して、以上の3つの資質・能力を修得していくが、学部新卒者においては学部段階で修得した教員としての基礎的な実践力を基礎に、現職教員においては教育経験を通して培ってきた実践力を基礎に学修していくため、最終的に養成する教員像は学部新卒者と現職教員では異なる。

学部新卒者は、教員としての基本的な資質・能力を身に付け、授業を実践する上での基礎的な力は備わっている。しかし、育成する資質・能力や単元全体、道徳教育や学級経営をはじめとする他の教育活動との関連等、広い視野を持って授業を構想することや、児童生徒理解に基づいて授業を実践する力量はまだ不十分である。そこで、学部新卒者においては、幅広い視野から育成すべき学力・授業像をとらえ、児童生徒の実態に即した授業の構想・展開を行うとともに、実施した授業を省察し、授業改善を図ることのできる教員を養成する。

現職教員は、これまでの学校現場での経験を通して、児童生徒の実態に即した授業の工夫や授業改善を図る力量が備わっている。しかし、今後の社会の変容や、学校・地域の実態、カリキュラム・マネジメントの視点による授業改善等、幅広い視野に立って実践を構想・展開できる高度な実践力が必要である。またそのような視点に基づいて、学校あるいは地域での授業改善の取り組みに貢献することのできる力量が求められる。そこで、現職教員においては、幅広い視野と深い児童生徒理解に基づいて、単元・授業を構想・展開できる実践的指導力を身に付けるとともに、実践の省察を通して自らの授業改善を図ることができる教員、校内研修等を通して学校全体の授業研究をリードすることのできる教員を養成する。

### 「児童生徒支援コース」

「児童生徒支援コース」は、学部新卒者と現職教員を対象としている。「児童生徒支援コース」では、ディプロマ・ポリシーに挙げた身に付けさせる3つの資質・能力を以下のように考える。

- 1) 子どもを深く理解できる力(背景を踏まえた児童生徒理解)
- 2) 広い視野(学校内外との連携力・チーム支援力)
- 3) 深い専門性(児童生徒の成長を促進する支援力)

教職大学院での履修を通じて、以上の3つの資質・能力を修得していくが、学部新卒者においては学部段階で修得した教員としての基礎的な実践力を基礎に、現職教員においては教育経験を通して培ってきた実践力を基礎に学修していくため、最終的に養成する教員像は学部新卒者と現職教員では異なる。

学部新卒生の場合、教員としての基本的な資質・能力を身に付け、児童生徒とのかかわる基本的な力は備わっている。しかし、生徒指導上の課題に触れる機会はほとんどなく、学級経営の意義を理解し、学級を意図的・計画的に指導しながら子ども理解を進める具体的なイメージはまだ形成されてない。そこで、学部新卒者においては、生徒指導上の課題を見聞し、それが授業や学級経営の中でどのように対応されているかを知ることによって、実際の取り組みに活かせる教員を養成する。

現職教員は、児童生徒の問題に対してカウンセリングマインドを身に付け、望ましい人間関係をつくり児童生徒や保護者との信頼関係を築く実践力が備わっている。しかし、それは自分の学級でのことであり、学年全体、学校全体の問題にリーダーとして対応できているとは限らない。そこで、現職教員においては、学校で生起している生徒指導上の課題に対して、多面的・多角的にアセスメントし、個と集団の実態に応じた適切な対応をとることができるとともに、外部人材を活用するなど協働体制を整えて指導したり、教員の役割連携を調整したりしながら、チームとして対応できる教員を養成する。

### 「教科領域コース」

「教科領域コース」は、学部新卒者と現職教員を対象としている。「教科領域コース」ではディプロマ・ポリシーに挙げた身に付けさせる3つの資質・能力を以下のように考える。

- 1) 子どもを深く理解できる力(多様な子どもの学習能力の実態把握)
- 2) 広い視野(教科・分野横断的視点)
- 3) 深い専門性(教科の深い専門性)

教職大学院での履修を通して、以上の3つの資質・能力を修得していくが、学部新卒者においては学部段階で修得した教員としての基礎的な実践力を基礎に、現職教員においては教育経験を通して培ってきた実践力を基礎に学修していくため、最終的に養成する教員像は学部新卒者と現職教員では異なる。

学部新卒者は、教員としての基本的な資質・能力を身に付け、授業を実践する上での基礎的な力や教科の知識が備わっている。しかし、現状の教育課題である「多様な子ども」や「最新の教育課題」に協働して対応することはまだ不十分である。そこで、学部新卒者においては、児童生徒の実態に応じて、教科内容に関する深い知識と概念を備え、それらを社会の変化や課題の複雑化に対応させつつ、教科指導に活かすことができる教員を養成する。

現職教員は、これまでの学校現場での経験を通して、児童生徒の実態に即した授業の工夫や授業改善を図る力量が備わっている。しかし、社会の多様性に対応する力が一層求められている状況を踏まえて、インクルーシブ教育の実現に貢献できる教員としての力量も求められてくる。そこで、現職教員においては、教科指導における「経験知」と「内容知」、教科・分野の枠を超えた多様な「方法知」を有機的に結び、総合的に活用する視点を身に付けるとともに、教材開発や教科内容に関する研究の在り方を校内や近隣の学校にも発信することのできる教員を養成する。

### 「特別支援科学コース」

「特別支援科学コース」は、学部新卒者と現職教員を対象としている。「特別支援科学コース」ではディプロマ・ポリシーに挙げた身に付けさせる3つの資質・能力を以下のように考える。

- 1) 子どもを深く理解できる力(多様な子どもの学習能力の実態把握)
- 2) 広い視野(教科・分野横断的視点)
- 3) 深い専門性(特別支援教育の深い専門性)

## 茨城大学教職大学院

教職大学院での履修を通して、以上の3つの資質・能力を修得していくが、学部新卒者においては学部段階で修得した教員としての基礎的な実践力を基礎に、現職教員においては教育経験を通して培ってきた実践力を基礎に学修していくため、最終的に養成する教員像は学部新卒者と現職教員では異なる。

学部新卒者は、特別支援教育に関する基本的な資質・能力を身に付け、授業を実践する上での基礎的な力や教科の知識が備わっている。しかし、アセスメント情報を具体的な支援に結び付けて考えたり、教育現場の実践課題に対して新しい教材を開発し、授業実践に結び付けたりすることはまだ不十分である。そこで、学部新卒者においては、特別支援教育に関するアセスメント能力と教材開発力を高め、特別支援学校や特別支援学級において子どもの特別ニーズに専門的に対応できる教員を養成する。

現職教員は、これまでの学校現場での経験を通して、特別なニーズのある子どもの実態把握や教材を開発する力量がある程度、備わっている。しかし、障害の多様化・重度化が一層進んでいる状況を踏まえて、また、インクルーシブ教育の理念を踏まえた教育実践を展開することが求められている状況において、特別支援教育を担当する教員として新しい力量を身に付けることが求められている。そこで、現職教員においては、様々な障害や学習困難に対応できるように、特別支援学校や特別支援学級以外での実践経験を積むことで、自らの勤務校の実践課題を明確にし、アセスメント技法の深い理解や、インクルーシブ教育を踏まえた授業づくりの視点をもつなどの新しい力量を身に付けていくことを目指す。そのうえで、現職教員においては、校内の教育内容研究をリードするとともに、近隣の学校や地域にも発信することができる教員を養成する。

### 「養護科学コース」

「養護科学コース」は、学部新卒者と現職教員を対象としている。「養護科学コース」ではディプロマ・ポリシーに挙げた身に付けさせる3つの資質・能力を以下のように考える。

- 1) 子どもを深く理解できる力(児童生徒の心身の健康状態の実態把握と支援する力)
- 2) 広い視野(多職種と連携し展開する力)
- 3) 深い専門性(養護の深い専門性)

教職大学院での履修を通じて、以上の3つの資質・能力を身に付けさせるが、学部新卒者においては学部段階で修得した教員としての基礎的な実践力を基礎に、現職教員においては教育経験を通して培ってきた実践力を基礎に学修していくため、最終的に養成する教員像は学部新卒者と現職教員では異なる。

学部新卒者は、養護教諭としての基本的な資質・能力を身に付け、児童生徒の心身の健康観察、救急処置、保健指導等による健康保持増進の実践に関わる基礎的な知識が備わっている。しかし、児童生徒の健康上の諸課題に触れる機会が少ないため一人ひとりの子どもを理解した上で継続した支援を行う具体的イメージはまだ不十分である。同様に、学校内外での連携についても理解はしていても主体的に実践する力は不足している。そこで、学部新卒者においては、養護の高度な専門性の追求と多職種連携を核としたチーム・アプローチに基づく学校マネジメントに主体的に参画できる教員を養成する。

現職教員は、これまでの学校現場での経験を通して、児童生徒の実態に即した養護・保健活動の力量がある程度、備わっている。しかし、これまでの勤務経験から児童生徒の心身の健康支援の在り方に関する困難感等を少なからず持っている。社会の変化や多様性、新たに生じる健康課題に対応する力が一層求められている状況を踏まえて、改めて子どもたちの心身の健康支援の在り方について深く理解し、多職種と連携して支援する力を身に付けた養護教諭が求められる。そこで、現職教員においては、多職種連携的な視点を踏まえた養護実践力と展開力、高度なカリキュラム・マネジメント能力を身に付けるとともに、子どもたちの発達段階に応じた支援とインクルーシブ教育とを意識しながら、児童生徒の主体的な健康管理能力と多面的な発達を促す支援を学校全体で推進していくことができる教員を養成する。

② 教育課程の編成の考え方及び特色

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画
<p>ア 教育課程の編成の考え方</p> <p>教育課程における科目区分を「共通科目」「専門科目」「実習科目」とし、「専門科目」の中にコースごとに学修する「コース別科目」とコース間で学び合う「コース間融合科目」を、「実習科目」の中にも「コース別実習」と「コース間融合実習」を配置した。カリキュラム・マネジメント能力に関しては、共通科目で6コース共通の必修科目として設定し、その中で修得させる。「子どもを深く理解できる力」、「深い専門性」、そして「広い視野」の3つの資質・能力に関しては、各コースの専門性に応じてこれらの3つの資質・能力の養成が担保されるように、「共通科目」「専門科目」「実習科目」で構成される全体のカリキュラムの中で修得させる。</p> <p>なお、本学教職大学院は6コース編成としているが、これまで設置されていた「学校運営コース」「教育方法開発コース」「児童生徒支援コース」の3コースは、いずれも学校教育の抱える具体的な課題に対しての教育実践で、新たに設置する「教科領域コース」「特別支援科学コース」「養護科学コース」の3コースは、教科・分野横断的視点や特別支援教育や養護教育の視点を融合して、学校教育の改善に貢献できる教員を養成することが特色となっている。そこで、カリキュラムを編成するうえで、便宜的に前者を「教育実践の深化」を図る教育実践系(以下「実践系」という。)、後者を「教育内容の深化」を図る教育内容系(以下「内容系」という。)とし、同系内のコース間融合を強め、地域の中にある様々な教育課題に対して、協働して課</p> <p>① 共通科目について</p> <p>共通科目では、「誰も置き去りにしない、すべての子どもの力を伸ばす教員を養成すること高度な専門性を備えた教員」を育成するため、全ての学生が共通して学ぶ科目を設定している。さらに、実践系3コースと内容系3コースではその特色に合わせて、異なる科目群を立てている。</p> <p>特色については以下のとおりである。</p> <p>a. 「教育課程の編成・実施に関する領域」には、カリキュラム・マネジメントに関する科目(「カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ、Ⅱ」)を設定し、6コース必修科目とした。</p> <p>b. 「教科等の実践的な指導方法に関する領域」には、コースの専門性に基づいて学びのニーズも異なるため、授業科目に多様性を持たせた。なお、最新の教育課題である「ICT活用とプログラミング」については、6コースすべての学生が履修可能な科目として設定した。</p> <p>c. 「生徒指導、教育相談に関する領域」には、多様な子どもを理解し、一人ひとりを尊重できるような学校づくりを目指すため、発達障害に関する科目(「発達障害児の理解と支援」)を6コース必修科目とした。また、「学級経営、学校経営に関する領域」にも「インクルーシブ教育の学校づくり」を設定し、6コースすべての学生が受講できるようにした。</p> <p>d. 「学校教育と教員の在り方に関する領域」には、地域の教育的課題を把握するため、茨城県の教育方針や学校現場の実情を学ぶ科目(「茨城の教育改革と開かれた学校づくり」)を6コース必修科目とした。</p> <p>e. 学校改善・授業改善のためには学校内における研修の活性化が必要となるため、専門職大学院設置基準上に明示された5つの領域に加えて、第6領域に本学教職大学院独自で開講する「学校改善と校内研修に関する領域」を設定した(実践系3コース:「校内研修の企画・立案と実践」、内容系3コース:「教育測定(評価)と校内研修」)。</p> <p>② 専門科目について</p> <p>専門科目には、それぞれのコースのねらいに沿って学修するコース別の科目(コース別科目)に加え、コース間を融合した科目(コース間融合科目)を設定した。さらに、理論と実践を往還するために、専門科目の中に実習での実践を振り返り、エビデンスに基づいた教育実践の評価及び改善を目指したプロジェクト学習(Project Based Learning:以下「ProjBL」という。)型の授業科目を設定した。</p> <p>③ 実習科目について</p> <p>理論と実践を往還するために、共通科目や専門科目で修得された知識を実践の場で検証するための多様な実習科目を設定する。専門科目と同様に、それぞれのコースで専門性に応じた実習科目(コース別実習)と、コース間で協働して取り組む実習科目(コース間融合実習)を設定する。</p>

「実践系3コース」

実践系3 コースの実習科目は、コース別実習とコース間融合実習からなる。共通科目や専門科目で学んだ理論を実践で確認し、実践的課題を見出す場として、1 年次前期にて3コース共通のコース間融合科目である「課題発見実習」を設けている。さらに、コースごとに課題の性質が異なるため、その特性に応じたコース別科目も用意されている。例えば、「学校運営コース」や「教育方法開発コース」では学校内を実習の中心に据えているが、「児童・生徒支援コース」では、学校での実習以外に適応指導教室を実習先とすることで、学校に来られない学校不応を示す児童・生徒との実際の関わりができるようにしている。さらに、協力校での実習においては、学生が入試の段階で自らの解決したい教育課題を提示し、入学決定後にはその課題に沿った実習校とのマッチングを行っていく点も特徴である。そのため、水戸市内すべての小・中学校との実習関係を結んでいる。実践系として実習科目に共通のねらいを設けつつも、コースの特性とニーズの多様性に応じるために個々のコースでの実習科目のねらいも設定されている。

【コース間融合実習】

「課題発見実習」(P1前期・2単位)

【コース別実習】

「学校運営コース」

学校運営開発実習 I (P1後期・3単位)

学校運営開発実習 II (P2通年・5単位)

「教育方法開発コース」

教育方法開発実習 I (P1後期・3単位)

教育方法開発実習 II (P2通年・5単位)

「児童生徒支援コース」

児童生徒支援実習 (P1後期・3単位)

学校適応アセスメント実習 (P2前期・3単位)

学校適応支援実習 (P2後期・2単位)

「内容系3コース」

内容系3 コースの実習科目については、コース別実習とコース間融合実習からなる。共通科目や専門科目で学んだ理論を実践で検証する場として、1 年次前期に3コース共通の実習科目(コース間融合実習)を設けている。この実習科目では内容系3 コースが協働して実施し、各コースにおける専門性も発揮できる場としている。「教科領域コース」と「特別支援科学コース」の学部新卒者においては、2 年次前期も同様に実習科目(コース間融合実習)を行い、異学年チュートリアル教育の中で後輩に指導する能力を身に付ける。実習科目(コース間融合実習)は地域にある学校や社会教育施設、病院等を実習先とすることで、身近にある地域資源を活用しながら地域での教育普及活動を通して教科・分野横断的な内容を指導する実践力を身に付けることが期待される。さらに、コースごとのねらいに応じた実習科目(コース別実習)も用意されている。共通科目や専門科目での学びを踏まえて実践力を高めることを目的としている。

【コース間融合実習】

「教材開発実習 I A」(P1前期・1単位)

「教材開発実習 I B」(P1通年・1単位)

「教材開発実習 II A」(P2前期・1単位)

「教材開発実習 II B」(P2通年・1単位)

「子供と大人への一次救命処置実習」(P1・前期1単位)

【コース別実習】

「教科領域コース」

教科領域実習 I (P1後期・3単位)

教科領域実習 II (P2前期・3単位)

教科領域実習 III (P2通年・5単位)

「特別支援科学コース」

特別支援教育教材開発実習Ⅰ(P1前期・1単位)

特別支援教育教材開発実習Ⅱ(P2前期・1単位)

特別支援教育アセスメント実習Ⅰ(P1後期・1単位)

特別支援教育アセスメント実習Ⅱ(P2後期・1単位)

特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ(P1前期・1単位)

特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ(P2前期・1単位)

特別支援教育授業改善実習(P2通年・5単位)

「養護科学コース」

養護科学実習Ⅰ(P1通年・2単位)

養護科学実習Ⅱ(P2通年・4単位)

養護科学実習Ⅲ(P2通年・4単位)

養護科学実習Ⅳ(P1後期・2単位)

イ 教育課程の編成の特色

1) 共通科目としての5領域に加えて、第6領域「学校改善と校内研修に関する領域」を独自に設置し、学校全体に貢献できる力を育成するとともに、各コースの専門科目及び実習科目によって、教育者としての使命感と豊かな人間性を有し、子ども理解に基づく高度な専門性を有する実践力を身に付けさせる。

2) 専門科目と実習科目において現職教員や学部新卒者といった年齢や経験の異なる者、さらに専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組むことを可能にするコース間“融合”の科目を設定した。これにより、教員の専門性を高めるだけでなく、それらの知識・技能を社会に展開する力を高めることになり、「社会に関わった教育課程」の実現につなげていく。

履 行 状 況

設置時の計画どおりに履行(3)(4)  
大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.58-68)

設置時の計画どおりに履行(3)(4)  
大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.58)

設置時の計画どおりに履行(3)(4)  
大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.59～68)

設置時の計画どおりに履行(3)(4)  
大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.59～61, 64, 66～68)



教育効果向上のため、教科領域実習Ⅰの配当年次を後期から通年に変更した。(3)

設置時の計画どおりに履行(3)(4)  
大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.58)

設置時の計画どおりに履行(3)(4)  
大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.59～68)

③ 教員組織の編成の考え方及び特色

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 教員組織の編成の考え方</p> <p>本専攻では、専任教員26名(研究者教員18名、実務家教員8名)の構成である。教授数は16名である。</p> <p>・実務家教員の配置の考え方</p> <p>実務家教員については、TT授業等、研究者教員と協力しながら、教育実践の現実及び理論の実践化の側面を中心に授業計画作成及び授業実践を行うとともに、実習指導に関わる主導的役割を担い、学生の高度な実践力養成につなげていくことに大きな役割がある。また、一部の実務家教員については、実習校との調整、毎年度末に開催する教育実践フォーラムの開催への中心的メンバーとしての役割も、実務歴の強みを生かして担う。</p> <p>上記の考えをもとに配置をしている。</p> <p>・教員の年齢構成と定年規定</p> <p>教員の年齢構成は資料5(p.518)のとおり。</p> <p>本学の定年は、国立大学法人茨城大学就業規則のとおり65歳である。(資料6:p.432)</p> <p>イ 教員組織の編成の特色</p> <p>本専攻の特徴としては、専任教員を中心とし、兼任教員の強い協力を得ながら運営を行うことである。これは、本専攻においては、学部との連続教育、及び教科や専門を超える教育を意識してきたことによる。具体的には、従来より教育学と心理学の融合科目の設定を行ってきたが、今回の改組においては、さらに、各教科等の専門性に特化するだけでなく、教科・分野横断的な視点や実践をカリキュラムの中に多く取り込んで広い視野を持つことによる専門性の深化も目指しているためである。ただし、専任教員の負担が大きくならないように、全学授業の軽減、校務の役割分担の軽減等を配慮するとともに、兼任教員の負担にも配慮し、兼任教員の協力を授業に絞るようにしながら、授業数の配分が専任教員とバランスがとれるように運営している。</p> <p>ウ 実務家教員と研究者教員の配置の比率の考え方</p> <p>本専攻の専任教員における実務家教員と研究者教員の比率は、4:9である(研究者教員であるが実務経験を有する実務家教員が4名を含む。)。各コースの特徴に応じて、実務家教員を配置している。また、兼任教員の中でも教育実務経験がある教員からの協力を得て、授業対応を行う。</p> <p>エ 専任教員が担当する学部・大学院の科目一覧</p> <p>学部・大学院の担当科目一覧(資料7:p.520～534)のとおり。</p>	<p>本専攻では、専任教員26名(研究者教員18名、実務家教員8名)の構成である。教授数は16名である。(教授数は、准教授1名昇進による変更。)(3)</p> <p>本専攻では、専任教員2625名(研究者教員1817名、実務家教員8名)の構成である。教授数は1617名である。(教授数は、准教授1名昇進による変更。専任教員数及び研究者教員は研究者教員の退職による変更。)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行。(3)(4)</p> <p>教員の年齢構成は資料5(p.506)のとおり。(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行。(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行。(3)(4)</p> <p>本専攻の専任教員における実務家教員と研究者教員の比率は、4:98:17である(研究者教員であるが実務経験を有する実務家教員が4名を含む。)。各コースの特徴に応じて、実務家教員を配置している。また、兼任教員の中でも教育実務経験がある教員からの協力を得て、授業対応を行う。(研究者教員の退職のため)(4)</p> <p>学部・大学院の担当科目一覧(資料7:p.508～522)のとおり。(3)(4)</p>

④ 教育方法、履修指導の方法及び修了要件

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 標準修了年限、履修科目の年間登録上限、修了要件、既修得単位の認定方法、成績評価の方法等</p> <p>1)標準修業年限 標準修業年限は2年とするが、現職教員(大学院設置基準第14条による教育方法を適用する者を除く)、経済的事情等を有する学部新卒者等に対する長期履修制度(3年修了)を設定する。ただし、教員免許取得支援プログラムを目的とした長期履修制度の利用は認めない。</p> <p>2)履修単位の年間上限枠の設定 年間上限枠については44単位とする。</p> <p>3)修了要件 2年以上在学し、48単位以上の修得を条件とする。なお、専修免許状取得要件の違いや養成目的の違いがあるため、各科目区分における単位数はコースごとに異なる。</p> <p>4)既修得単位の認定方法 学生が、他大学大学院教育学研究科及び教職大学院等において入学以前に修得した授業科目単位のうち、本学大学院の授業内容と同等のものとみなす場合には、それを本学大学院教育学研究科の単位として認めることができる。ただし、10単位を超えないものとする。読み替えについては、専門職大学院設置基準(平成15年文部科学省令16号)に則り、当該大学院の教育課程及び科目シラバスと本専攻のシラバスを検討して、研究科委員会にて合議し、認定する。</p> <p>5)成績評価の方法 実習科目については、学校等の実習監督教員等からの意見を参考にしながら、評価を行う。それ以外の科目については、授業担当者が授業ごとの達成目標に照らし評価を行う。</p> <p>イ 学修の修了を総合的・最終的に確認するための方策等 修了認定については、修了要件に沿って研究科委員会において単位認定を行い、学長が決定する。なお、学修の最終的成果は学生が自ら設定したテーマ探究の結果も重要な要素となるため、その成果を発表する機会を設定し、これについても複数の教員による客観的な判断を行うものとする。</p> <p>ウ 実践的な教育を行うための授業の工夫 ① 理論と実践の往還を確実にするため、実習と課題研究をリンクさせ、共通科目や専門科目の学びによって新たな発見と学びの検証を可能にする授業間の連携を構築する。主として、研究者教員と実務家教員によるチーム・ティーチング授業、教科専門と教科教育の教員によるチーム・ティーチング授業等を行う。 ② 広い視野をもって協働・連携して課題に取り組むことができるようにするため、教科・分野横断的なコース間融合科目やコース間融合実習といった授業科目を設定する。専門性の異なる複数分野の教員が授業を担当する中で、専門性の異なる学生が互いに学び合う場を提供する。 ③ 各授業において、学生の主体的な学びを促進するため、グループ活動やディスカッション等を取り入れた授業を積極的に展開する。 ④ 学生の研究テーマに対応するため、それぞれ指導教員を1名配置するとともに、多様な観点からの指導を行うために、各コースにおいて集団指導を実施する。</p> <p>エ 現職教員学生と学部新卒学生の合同教育を行う場合の工夫 現職教員や学部新卒者といった年齢や経験の異なる者、さらに専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組むことを可能にするコース間“融合”の科目を設定した。</p> <p>オ 1年コースや長期コースを設定する場合の理念、方策 記載なし</p> <p>カ 現職教員に対する実習免除の基準等 記載なし</p>	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.34)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.35) 設置時の計画どおりに履行(3)(4) 大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.34)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 茨城大学大学院学則第20条に規定(資料8:p.523)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.33~34)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 教職大学院案内(資料1:p.4~7) 大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.58~68)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 教職大学院案内(資料1:p.4~7) 大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.58~68)</p> <p>長期履修制度は、茨城大学大学院教育学研究科規程第9条のとおり。(資料9:p.524)(3)(4)</p> <p>現職教員に対する実習の免除は行わない。(3)(4)</p>

⑤ 既存の学部（修士課程）との関係

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
修士課程を廃止し、教職大学院へ全面移行する。	設置時の計画どおりに履行(3)(4)

⑥ 入学者選抜の概要

認可（設置）時の計画	履 行 状 況																												
<p>ア 入学者選抜の概要(選抜方法、選抜体制等)</p> <p>各コースにおける選抜方法、配点、定員等は以下のとおりである</p> <table border="1" data-bbox="169 606 880 947"> <thead> <tr> <th>コース名</th> <th>選抜方法及び配点</th> <th>定員</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校運営コース</td> <td>口述試験 (200点)</td> <td>7</td> <td>全員、現職教員。</td> </tr> <tr> <td>教育方法開発コース</td> <td>論述試験 (100点) 口述試験 (200点)</td> <td>4</td> <td>現職教員を含む。</td> </tr> <tr> <td>児童生徒支援コース</td> <td>論述試験 (100点) 口述試験 (200点)</td> <td>4</td> <td>現職教員を含む。</td> </tr> <tr> <td>教科領域コース</td> <td>論述試験 (100点) 口述試験 (200点)</td> <td>22</td> <td>現職教員を含む。</td> </tr> <tr> <td>特別支援科学コース</td> <td>論述試験 (100点) 口述試験 (200点)</td> <td>3</td> <td>現職教員を含む。</td> </tr> <tr> <td>養護科学コース</td> <td>論述試験 (100点) 口述試験 (200点)</td> <td>3</td> <td>現職教員を含む。</td> </tr> </tbody> </table> <p>選抜体制については、各コース(ただし、教科領域コースにおいては各教科単位)で論述試験及び口述試験の結果について予備審査を行い、研究科判定委員会できり判定を行い、研究科委員会で審議する。その結果について最終的に学長が入学者を決定する。なお、現職派遣教員については全員、口述試験200点で選抜を行う。</p> <p>イ アドミッション・ポリシー</p> <p>教育学研究科教育実践高度化専攻は、学校教育に関わる高度な専門性と実践力を有する人材の育成を目指すために、学部新卒学生については、教職に対して明確な志望動機を有し、同僚性を育み、学校内の多様な教育活動において活躍する意欲と能力のある即戦力としての人材を、現職教員については、ミドルリーダーあるいはスクールリーダーとして、学校や地域の教育活動をリードする意欲と能力のある人材を求める。</p> <p>そのため、受験資格は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校運営コースは、保護者や地域との連携・協力を推進し、課題解決のために教職員の協働性を構築するマネジメント力を育成するため、原則として10年以上の現職経験を有している者。</li> <li>・ 教育方法開発コースは、幅広い視野から育成すべき学力・授業像をとらえ、児童生徒の実態に即した授業の構想・展開を行うとともに、授業を省察し、授業改善を図る能力を育成するため、小学校教諭一種免許状又は中学校教諭一種免許状を有している者もしくは取得見込みの者。</li> <li>・ 児童生徒支援コースは、児童生徒の教育的ニーズを把握し、指導方法や指導体制の工夫改善を行うことによって、個に応じた指導を充実する能力を育成するため、小学校教諭一種免許状又は中学校教諭一種免許状を有している者もしくは取得見込みの者。</li> <li>・ 教科領域コースは、深い教科専門性と教科の枠を超えた幅広い視野から、子どもの現状に適切に対応する教育内容研究で学校をリードできる実践力を育成するため、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状又は高等学校教諭一種免許状を有している者もしくは取得見込みの者。</li> <li>・ 特別支援教育コースは、障害のある子に対するアセスメント能力とその実態に応じた教材開発力で特別支援教育をリードできる実践力を育成するため、特別支援学校一種免許状を有している者もしくは取得見込みの者。</li> <li>・ 養護科学コースは、養護の高度な専門性の追求と多職種連携を核としたチーム・アプローチに基づく学校マネジメントに主体的に参画する力を育成するため、①養護教諭一種免許状を有している者もしくは取得見込みの者、②養護教諭2種免許状を有し、教員経験3年以上を有する者、③養護教諭2種免許状及び保健師免許状を有する者もしくは取得見込みの者。</li> </ul> <p>なお、全てのコースにおいて、スクールリーダー・ミドルリーダーを養成することが現職教員に対する本専攻の目的であることから、現職教員は原則として10年以上の現職経験を有する者とする。</p> <p>ウ 現職教員受入れのための具体的方策</p> <p>現職教員学生については茨城県教育委員会との協議により、毎年度派遣されることとなっている。また、本研究科の構想においては、茨城県教育委員会との複数の協議会や個別の協議のうえ、最新の教育課題への対応やニーズ等を踏まえたものとなっており、大学院修士休業制度を利用した現職教員学生の入学者も期待できる。</p>	コース名	選抜方法及び配点	定員	備考	学校運営コース	口述試験 (200点)	7	全員、現職教員。	教育方法開発コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	4	現職教員を含む。	児童生徒支援コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	4	現職教員を含む。	教科領域コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	22	現職教員を含む。	特別支援科学コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	3	現職教員を含む。	養護科学コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	3	現職教員を含む。	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究科学生募集要項(専門職学位課程)(資料4:p476~505)</li> <li>・ 学生数の状況は、「1 調査対象研究科等の令和4年度入学者・在学者の状況」</li> </ul> <p>「① 調査対象研究科等の令和4年度入学者の状況」参照</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>茨城大学ホームページ  <a href="https://www.ibaraki.ac.jp/education/policy/gs_professional/index.html">https://www.ibaraki.ac.jp/education/policy/gs_professional/index.html</a></p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p>
コース名	選抜方法及び配点	定員	備考																										
学校運営コース	口述試験 (200点)	7	全員、現職教員。																										
教育方法開発コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	4	現職教員を含む。																										
児童生徒支援コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	4	現職教員を含む。																										
教科領域コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	22	現職教員を含む。																										
特別支援科学コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	3	現職教員を含む。																										
養護科学コース	論述試験 (100点) 口述試験 (200点)	3	現職教員を含む。																										

茨城大学教職大学院

<p>エ 学部新卒者受入れのための具体的方策</p> <p>1)教職大学院説明会 改組後の魅力的なカリキュラムを積極的にアピールするとともに、教員採用試験に合格した場合の「採用候補者名簿登録の猶予制度」等のメリットについても周知徹底を図り、教職大学院への志望者の増加を図る。</p> <p>2)全学教職センターと連携した教育学部以外の学生に対する広報 全学教職センターは教育学部以外の専門学部の教員養成の強化を図っており、同センターと教職大学院とが連携した広報活動を実施する。</p> <p>3)近隣他大学からの入学者確保に向けた取組 近隣の連携大学(茨城キリスト教大学、常磐大学)の学部学生に対し、本学教職大学院進学の魅力やメリットを伝える広報活動を積極的に行い、入学希望者の増加を目指す。</p> <p>4)教職大学院進学者及び修了者のインセンティブ 茨城県では、教員採用試験に合格した大学院進学者について、採用候補者名簿登録の猶予が認められており、さらに、大学等推薦特別選考に対する指定を受けており、推薦者については1次試験が免除されている。</p>	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 学部内及び学外向けの説明会をオンラインにて実施した。(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 教育学部以外の学生へは全学教職センターと連携し、メール及び動画配信による広報活動を行った。(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 新型コロナウイルスによる影響で対面による実施はできなかったが、近隣の連携大学にはメールにて説明会の案内等の周知を図った。(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 茨城県教員採用試験において、教職大学院修了者に対する一次試験の一部免除が新たに設定された(4)</p>
--	---

⑦ 取得できる免許状

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 取得できる免許状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営コース、教育方法開発コース、児童生徒支援コース</li> <li>幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状</li> <li>中学校教諭専修免許状(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業指導、英語)</li> <li>高等学校教諭専修免許状(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、家庭、工業、職業指導、英語)</li> <li>・教科領域コース</li> <li>小学校教諭専修免許状</li> <li>中学校教諭専修免許状(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語)</li> <li>高等学校教諭専修免許状(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、工業、英語)</li> <li>・特別支援科学コース</li> <li>特別支援学校教諭専修免許状</li> <li>・養護科学コース</li> <li>養護教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(保健)、高等学校教諭専修免許状(保健)</li> </ul>	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院学生便覧(専門職学位課程)(資料2:p.34~35)</li> </ul> <p>出願資格に小学校又は中学校教諭の一種免許状又は専修免許状を有する者を条件としている。(3)(4)</p>

茨城大学教職大学院

⑧ 「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の特例を実施する場合

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 修業年限 2年間。2年目は週1日の登校である。</p> <p>イ 履修指導の方法 1年目で講義等の授業中心に指導を行い、2年目は週1日登校し、実習関連科目等を中心に研究指導を行う。また、必要に応じて、指導教員が、院生の現任校に趣いて授業を行う。</p> <p>ウ 授業の実施方法 2年目においても週1日は大学において授業や研究指導を受けられるようにし、指導教員と十分なコミュニケーションのもとに研究が進められるようにする。また、現任校実習については、現任校と協力しながら大学教員が指導訪問を行い、実習の質を保つ。</p> <p>エ 教員の負担の程度 専任教員には学部の基盤科目(教養科目)の担当を免除する等の負担軽減措置をとるが、基本的に教育学研究科教員の全員出勤体制で運営するため、通常の勤務の程度の負担となる。</p> <p>オ 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮 大学図書館は平日夜21時45分まで開館しており、土日も利用できる。令和2年度より全学的にネット利用可能な環境(BYOD)となるため、各自のパソコンを利用できる。</p> <p>カ 入学者選抜の概要 茨城県の推薦を得た者に対して、研究計画書及び口頭試問によって選抜を行う。</p>	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 本学教育学部附属学校園の教員が入学を希望する場合は、所属校長の推薦に基づき、入学試験を経て学長が許可する。(3)(4)</p>

⑨ 2以上の校地において教育研究を行う場合

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 専任教員の配置、教員の移動への配慮</p> <p>イ 学生への配慮</p> <p>ウ 施設設備、図書</p> <p>エ 開設科目名及び開設科目ごとにおける対象の学生数</p>	<p>該当なし(3)(4)</p>

⑩ 現職教員を対象とした教育の一部を本校以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 開講科目</p> <p>イ 教育研究環境、施設設備、図書</p> <p>ウ 教員の移動</p> <p>エ 受入れ学生数</p>	<p>該当なし(3)(4)</p>

茨城大学教職大学院

⑪ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
ア 実施場所, 実施方法, 学則における規定等 イ 開設科目名 ウ 開設科目ごとにおける対象の学生数	該当なし(3)(4)

⑫ 管理運営の考え方

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 研究科委員会</p> <p>① 構成員                      大学院担当の全教員によって構成され、議長は研究科長が務め、実際の進行は大学院専門委員長が行う。</p> <p>② 開催状況                      原則月1回の開催</p> <p>③ 審議事項等                      研究科(専攻)の人事, 教務, 入試, 組織, その他の重要事項</p> <p>イ その他の組織体制</p> <p>(1) 大学院専門委員会</p> <p>① 構成員                      原則として専任教員の中から選ばれた専門委員長および副委員長と、大学院専任教員によって構成される。コースに複数の専任教員がいる場合は一人を選出する。</p> <p>② 開催状況                      原則月1回の開催</p> <p>③ 審議事項等                      研究科委員会に提案する審議事項, 報告事項</p> <p>(2) コース会議</p> <p>① 構成員                      コース主任及びコース所属の教員によって構成(教科領域コースにおいては各教科の専任教員によって構成)</p> <p>② 開催状況                      記載なし</p> <p>③ 審議事項等                      各コースの教務, 学生支援, 人事, 予算, 年間計画, 評価等, 各コースに関わる全般的事項を協議</p> <p>(3) 実習運営委員会</p> <p>① 構成員                      委員長は学部の教育実習委員長が兼ね、学部と大学院双方の実習に関わる対外的な代表を務める。また、専門委員会副委員長が当委員会の副委員長となり、委員長とともに学部との調整を図るとともに、当委員会の運営を司る。委員長を除き、委員は専任教員が務める。</p> <p>② 開催状況                      原則月1回の開催。実習前後は、必要に応じて開催。</p>	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)                      茨城大学大学院教育学研究科委員会細則(資料10:p.525~526)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)                      茨城大学大学院教育学研究科委員会専門委員会内規(資料11:p.527~528)</p> <p>具体的には次の事項とする。                      教員選考, 修了認定, 学位, 教育課程, 実習, 地域機関との連携等(3)(4)</p> <p>④ 部会                      専門委員会内に教務・点検評価専門部会, 入試・広報専門部会を設置し, 教務やFD, 入学者対策や情報発信等に関わる業務を迅速に展開する。(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>各コースにおいて適宜実施(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(①を除く)(3)(4)                      茨城大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻実習運営委員会内規(資料12:p.529~530)</p> <p>委員長は学部の教育実習委員長が兼ね、学部と大学院双方の実習に関わる対外的な代表を務める大学院専門委員会委員長とする。また、専門委員会副委員長が当委員会の副委員長となり、委員長とともに学部との調整を図るとともに、当委員会の運営を司る。委員長を除き、委員は専任教員が務める。                      当初は委員長を学部の教育実習委員長が兼ねる予定であったが、新型コロナウイルスの影響により実習先と個別に協議する必要性が高まったことから、学部の実習と教職大学院の実習を分けて運営するため、委員長を大学院専門委員会委員長へと変更する。代わりに、調整機関として教育実習合同委員会を設置する。(3)</p> <p>委員長は大学院専門委員会委員長とする。また、専門委員会副委員長が当委員会の副委員長となり、委員長とともに、当委員会の運営を司る。委員長を除き、委員は専任教員が務める。                      当初は委員長を学部の教育実習委員長が兼ねる予定であったが、新型コロナウイルスの影響により実習先と個別に協議する必要性が高まったことから、学部の実習と教職大学院の実習を分けて運営するため、委員長を大学院専門委員会委員長へと変更した。代わりに、調整機関として教育実習合同委員会を設置した。(4)</p>



茨城大学教職大学院

<p>③ 審議事項等 実習の計画, 実施に関すること, 実習連絡協議会に関すること等</p> <p>(4) 実習連絡協議会</p> <p>① 構成員 大学側: 学部長, 大学院専門委員長, 教育実習委員長, 将来計画委員長, 教育実習委員, 専攻長, 専任教員, 兼任教員(必要に応じて兼任教員, 非常勤講師等)。実習施設(附属学校園, 連携協力校, 連携協力機関)側: 各施設の実習監督者又はその代理者。</p> <p>② 開催状況 年2回開催(概ね5月と2月)</p> <p>③ 審議事項等 第1回: 実習の目的, 実習の計画, 実施体制等に関すること。 第2回: 実習成果の検討・改善及び次年度実習をめぐる課題に関すること。</p>	<p>④ 学部実習との連携強化 教育実習合同委員会を設置し, 教育学部実習と教職大学院実習について, 実習時期・実習校等の情報共有を図り, 連携を強化する。(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4) 茨城大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻実習連絡協議会内規(資料13:p.531~532)</p> <p>大学側: 学部長, 研究科長, 大学院専門委員長, 教育実習委員長, 将来計画委員長, 教育実習委員, 専攻長, 専任教員, 兼任教員(必要に応じて兼任教員, 非常勤講師等)。 実習施設(附属学校園, 連携協力校, 連携協力機関)側: 各施設の実習監督者又はその代理者。 附帯事項での指摘を受けて, 教員の負担を軽減するため及び実習運営委員会を学部の実習と分けて運営するため, 大学側の構成員を見直す。(3) 大学側: 研究科長, 大学院専門委員長, 将来計画委員長, 専攻長, 専任教員 実習施設(附属学校園, 連携協力校, 連携協力機関)側: 各施設の実習監督者又はその代理者。 附帯事項での指摘を受けて, 教員の負担を軽減するため及び実習運営委員会を学部の実習と分けて運営するため, 大学側の構成員を見直した。(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)</p>
---	---

⑬ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>ア 大学全体のFDの取組 本学全学教育機構が構築したアンケート分析システムにより, ディプロマ・ポリシーの達成度を可視化し, 当該結果を全学的にFDに活用している。</p> <p>イ 教職大学院独自のFDの取組 教務委員会, 学生支援委員会, 点検評価委員会などが中心となって, 上記アの結果や, 研究科内の課題を捉えてFDを実施する。また, 授業公開や授業の自己点検をあわせて行う。 FDは全教員を対象とし, 研究科全体およびコース別でそれぞれ最低年1回は開催する。</p> <p>ウ 教職大学院専任教員の研究の質の向上に向けた取組 実務家教員が研究者教員と共同で進める研究の成果を発表し, 実務家教員の研究能力を高める。</p>	<p>設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行予定。計画のFD以外にも専門委員会に教務・点検評価専門部会を組織し, FD等による研修を行う予定。(3)(4)</p> <p>設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)</p>

⑭ 連携協力校等との連携

認可(設置)時の計画	履行状況																																																						
<p><b>ア 連携協力する学校名と具体的な連携内容</b></p> <p>コースごとに多様な実習を用意している。いずれのコースとも附属学校園を活用しつつも、連携協力校等と連携した実習を行うことで、自ら主体的に取り組むべき教育的課題を発見し、それを解決する方法を見出す資質能力を培うことをねらいとしている。ただし、連携協力校等の選定及び実習の内容についてはコースの多様性に対応してコースごとに異なっている。</p> <p>学部新卒者については、実習科目の多くを連携協力校等で行うこととなる。一方で、現職教員については、実習科目の多くを現任校で行う。連携協力校等においては、各コースにおける実習科目のねらいを達成するためにフィールドを提供するものであるが、教職大学院の教員及び学生が関わるにより、それぞれの連携協力校等における実践課題を解決する糸口を示すとともに、実践的研究を発展させることができるものと期待される。具体的な連携協力校は下表のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="164 566 882 653"> <thead> <tr> <th>幼稚園</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>高等学校</th> <th>社会教育施設</th> <th>特別支援学校</th> <th>通応指導教室</th> <th>病院・開放学級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>牛久市 2</td> <td>東海村 2 大洗町 2 水戸市 32</td> <td>東海村 6 大洗町 2 水戸市 16</td> <td>鉾田市 2 水戸市 16 ひたちなか市 1 笠間市 1</td> <td>大洗町 1 水戸市 1</td> <td>茨川市 1 水戸市 1</td> <td>東海村 2 笠間市 1 ひたちなか市 1 水戸市 1</td> <td>水戸市 2</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="164 667 882 950"> <thead> <tr> <th>幼稚園</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>高等学校</th> <th>社会教育施設</th> <th>特別支援学校</th> <th>通応指導教室</th> <th>病院・開放学級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>牛久市立第一幼稚園</td> <td>東海村</td> <td>東海村</td> <td>鉾田第一高等学校</td> <td>アクアワールド 茨城県大洗水族館</td> <td>友部東 特別支援学校</td> <td>東海村教育支援センター</td> <td>水戸済生会総合病院</td> </tr> <tr> <td>牛久市立第二幼稚園</td> <td>大洗町 全小学校 水戸市</td> <td>大洗町 全中学校 水戸市</td> <td>水戸第二高等学校 水戸第三高等学校 緑岡高等学校 佐和高等学校 笠間高等学校</td> <td>茨城県立歴史館</td> <td>盲学校 水戸聾学校 水戸聾高特別支援学校 水戸特別支援学校</td> <td>東海村発達支援センター 水戸市 通応指導教室 水戸市 通応指導教室 かしのひろば 水戸市 通応指導教室 あたごのひろば 茨城町教育支援センター 通応指導教室 とんぼのひろば 水戸市 教育研究所 通応指導教室 「いちよう広場」 水戸市 通応指導教室 うめの間広場</td> <td>水戸市開放学級 (放課後児童健全育成事業)</td> </tr> </tbody> </table> <p>実習科目名</p> <table border="1" data-bbox="164 966 882 1084"> <thead> <tr> <th>特別支援科学コース 特別支援教育コース・II フランス実習Ⅰ・Ⅱ</th> <th>教育方法開発コース 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ 児童生徒支援コース 特別支援教育実践実習 学校運営実習 学校運営実習</th> <th>教科領域コース 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ</th> <th>教科領域・特別支援科 学・養護科学コース 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ</th> <th>養護科学コース 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</th> <th>児童生徒支援コース 児童生徒支援実習</th> <th>教科領域・特別支援科 学・養護科学コース 子どもと大人への一 次 総合実習実習Ⅰ 水戸済生会総合病院 実習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	社会教育施設	特別支援学校	通応指導教室	病院・開放学級	牛久市 2	東海村 2 大洗町 2 水戸市 32	東海村 6 大洗町 2 水戸市 16	鉾田市 2 水戸市 16 ひたちなか市 1 笠間市 1	大洗町 1 水戸市 1	茨川市 1 水戸市 1	東海村 2 笠間市 1 ひたちなか市 1 水戸市 1	水戸市 2	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	社会教育施設	特別支援学校	通応指導教室	病院・開放学級	牛久市立第一幼稚園	東海村	東海村	鉾田第一高等学校	アクアワールド 茨城県大洗水族館	友部東 特別支援学校	東海村教育支援センター	水戸済生会総合病院	牛久市立第二幼稚園	大洗町 全小学校 水戸市	大洗町 全中学校 水戸市	水戸第二高等学校 水戸第三高等学校 緑岡高等学校 佐和高等学校 笠間高等学校	茨城県立歴史館	盲学校 水戸聾学校 水戸聾高特別支援学校 水戸特別支援学校	東海村発達支援センター 水戸市 通応指導教室 水戸市 通応指導教室 かしのひろば 水戸市 通応指導教室 あたごのひろば 茨城町教育支援センター 通応指導教室 とんぼのひろば 水戸市 教育研究所 通応指導教室 「いちよう広場」 水戸市 通応指導教室 うめの間広場	水戸市開放学級 (放課後児童健全育成事業)	特別支援科学コース 特別支援教育コース・II フランス実習Ⅰ・Ⅱ	教育方法開発コース 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ 児童生徒支援コース 特別支援教育実践実習 学校運営実習 学校運営実習	教科領域コース 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ	教科領域・特別支援科 学・養護科学コース 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ	養護科学コース 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	児童生徒支援コース 児童生徒支援実習	教科領域・特別支援科 学・養護科学コース 子どもと大人への一 次 総合実習実習Ⅰ 水戸済生会総合病院 実習								<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>教科領域コースに関しては、学生のニーズによっては高等学校での実習希望者が増える可能性があるため、左表の赤字で記されている学校を新たに連携協力校に加えている。(3)(4)</p> <p>教職大学院実習の手引き(資料14:p.673)</p> <p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>教科領域コースに関しては、学生のニーズによっては高等学校での実習希望者が増える可能性があるため、左表の赤字で記されている学校を新たに連携協力校に加えている。(3)(4)</p> <p>教職大学院実習の手引き(資料14:p.673)</p>
幼稚園	小学校	中学校	高等学校	社会教育施設	特別支援学校	通応指導教室	病院・開放学級																																																
牛久市 2	東海村 2 大洗町 2 水戸市 32	東海村 6 大洗町 2 水戸市 16	鉾田市 2 水戸市 16 ひたちなか市 1 笠間市 1	大洗町 1 水戸市 1	茨川市 1 水戸市 1	東海村 2 笠間市 1 ひたちなか市 1 水戸市 1	水戸市 2																																																
幼稚園	小学校	中学校	高等学校	社会教育施設	特別支援学校	通応指導教室	病院・開放学級																																																
牛久市立第一幼稚園	東海村	東海村	鉾田第一高等学校	アクアワールド 茨城県大洗水族館	友部東 特別支援学校	東海村教育支援センター	水戸済生会総合病院																																																
牛久市立第二幼稚園	大洗町 全小学校 水戸市	大洗町 全中学校 水戸市	水戸第二高等学校 水戸第三高等学校 緑岡高等学校 佐和高等学校 笠間高等学校	茨城県立歴史館	盲学校 水戸聾学校 水戸聾高特別支援学校 水戸特別支援学校	東海村発達支援センター 水戸市 通応指導教室 水戸市 通応指導教室 かしのひろば 水戸市 通応指導教室 あたごのひろば 茨城町教育支援センター 通応指導教室 とんぼのひろば 水戸市 教育研究所 通応指導教室 「いちよう広場」 水戸市 通応指導教室 うめの間広場	水戸市開放学級 (放課後児童健全育成事業)																																																
特別支援科学コース 特別支援教育コース・II フランス実習Ⅰ・Ⅱ	教育方法開発コース 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ 児童生徒支援コース 特別支援教育実践実習 学校運営実習 学校運営実習	教科領域コース 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ	教科領域・特別支援科 学・養護科学コース 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ 教科領域実習Ⅰ・Ⅱ	養護科学コース 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	児童生徒支援コース 児童生徒支援実習	教科領域・特別支援科 学・養護科学コース 子どもと大人への一 次 総合実習実習Ⅰ 水戸済生会総合病院 実習																																																	
<p><b>イ 連携協力校以外の関係機関(民間企業、関係行政機関、教育センター等)の名称と具体的な連携内容</b></p> <p>コースの特徴に応じて、児童生徒支援コース、内容系3コース(教科領域コース、特別支援科学コース、養護科学コース)については連携協力校以外の関係協力機関で実習を行う。児童生徒支援コースにおいては、不登校等の理解と対応を実習するため、上表の適応指導教室において実習を行う。内容系3コースについては、多様な子どもに対する教材開発を地域での教育普及活動や子どもの学校における安全確保と危機対応を行うため、上表の社会教育施設及び病院・開放学級においてコース間融合実習を実施する。</p>	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>教職大学院実習の手引き(資料14:p.673)</p>																																																						
<p><b>ウ 大学・学部が附属学校を設置している場合の活用方法</b></p> <p>茨城大学教育学部では附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校を有している。教職大学院の全ての学生がこれらの附属学校園を実習で活用する。詳細は下表参照。</p> <table border="1" data-bbox="164 1517 882 1728"> <thead> <tr> <th>附属幼稚園</th> <th>附属小学校</th> <th>附属中学校</th> <th>附属特別支援学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ</td> <td>〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ 〔養護科学コース〕 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ</td> <td>〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ 〔養護科学コース〕 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ</td> <td>〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ 〔特別支援科学コース〕 特別支援教育教材開発実習Ⅰ・Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ・Ⅱ 〔養護科学コース〕 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ</td> </tr> </tbody> </table>	附属幼稚園	附属小学校	附属中学校	附属特別支援学校	〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ	〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ 〔養護科学コース〕 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ	〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ 〔養護科学コース〕 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ	〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ 〔特別支援科学コース〕 特別支援教育教材開発実習Ⅰ・Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ・Ⅱ 〔養護科学コース〕 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>教職大学院実習の手引き(資料14:p.674)</p>																																														
附属幼稚園	附属小学校	附属中学校	附属特別支援学校																																																				
〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ	〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ 〔養護科学コース〕 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ	〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ 〔養護科学コース〕 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ	〔学校運営・教育方法開発・児童生徒支援コース〕 課題発見実習 〔教科領域コース〕 教科領域実習Ⅰ 〔特別支援科学コース〕 特別支援教育教材開発実習Ⅰ・Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ・Ⅱ 〔養護科学コース〕 養護科学実習Ⅰ・Ⅱ																																																				

⑮ 実習の具体的な計画

認可(設置)時の計画	履行状況
<p><b>ア 実習計画の概要</b></p> <p>・実習目標</p> <p>①学校運営コース</p> <p>学校運営コースの実習のねらいは「子ども・保護者・地域の抱える様々な教育課題について、学校の状況を分析し、リーダーシップを発揮して課題解決するマネジメント力を身に付ける」ことである。</p>	<p>設置時の計画どおりに履行(3)(4)</p> <p>教職大学院実習の手引き(資料14:p.546~670)</p>

## 茨城大学教職大学院

### ②教育方法開発コース

教育方法開発コースの実習のねらいは「児童生徒理解に基づいて、効果的な授業や指導方法を構想し、実践する力、児童生徒の学びの実際に即して授業を省察し、改善していく力を身に付ける」ことである。

### ③児童生徒支援コース

児童生徒支援コースの実習のねらいは「通常学級で学ぶ教育的ニーズのある児童生徒に対して、学級経営や授業を工夫しながら支援する、個に応じた指導の力を身に付ける」ことである。

### ④教科領域コース

教科領域コースの実習のねらいは「多様な視点による児童生徒の実態分析を踏まえ、教科内容の深い理解に基づいた教材を開発する力を身に付ける」ことである。

### ⑤特別支援科学コース

特別支援科学コースの実習のねらいは、「特別支援教育に関するアセスメント能力と教材開発力の深化」を身に付けることである。

### ⑥養護科学コース

養護科学コースの実習のねらいは、「学生一人ひとりが求める養護実践力の深化と学校内外の教職員と連携し諸機関との協働を推進する高度かつ展開的な実践力の養成」である。

#### ・実習単位

・具体的な実習内容、教育上の効果

「②教育課程の編成の考え方及び特色」「ア ③実習科目について」にて記載のとおりである。

#### ・実習施設に求める要件

①教職大学院における実習のねらいと学校で行っている教育・研究の取り組み内容との関連があること  
②校長、教頭をはじめとして、教職員の理解があり、十分な協働体制を構築することができること

#### ・実習期間・時間

「②教育課程の編成の考え方及び特色」「ア ③実習科目について」にて記載のとおりである。単位数に応じて実習期間は設定されている。

#### ・学生の配置人数等

記載なし

#### ・問題対応、きめ細やかな指導を行うための実習委員会の設置等

専攻内に設置されていた実習運営委員会を教育学部の教育実習委員会へ統合し、実習中の問題への対応やきめ細やかな指導を行うための方策を検討する。実習中の問題で実習機関との連絡調整協議が必要な場合は、教育実習連絡協議会で検討する。

#### ・学生へのオリエンテーションの内容、方法

記載なし

### イ 実習指導体制と方法

#### ・巡回指導計画

主に大学指導教員が巡回指導を行うが、指導教員以外の教員も訪問指導できるとし、多様な視点から指導にあたる。実習ごとに巡回指導計画表を作成した。

#### ・実習担当教員ごとに勤務モデル等

全ての専任教員の勤務モデルを作成した。

#### ・実習計画全体が把握できる年間スケジュール

実習計画全体が把握できる表を作成した。

#### ・各班のスケジュール表

上記のとおり、実習科目ごとに巡回計画表を作成した。

#### ・各段階における学生へのフィードバック、アドバイスの方法等

実習の前後にはProjBL型の授業科目を設定している。

#### ・学生の実習中、実習終了後のレポート作成・提出等

実習中のレポートについては、定められた書式に従って作成を求め、提出させる。

設置時の計画どおりに履行(3)(4)

教職大学院実習の手引き(資料14:p.546~670)

設置時の計画どおりに履行(3)(4)

なお、学校以外の連携協力機関においても連携協力校と同様の要件で選定している(3)(4)

教育効果向上のため、教科領域実習Ⅰの配当年次を後期から通年に変更した。(3)(4)

教職大学院実習の手引き(資料14:p.542~543)

連携協力校については、1校あたり1名から5名程度で行う。コース間融合実習においては、1学年10~20名程度で実施する。(3)(4)

専攻内に設置されていた実習運営委員会を教育学部の教育実習委員会へ統合し、実習中の問題への対応やきめ細やかな指導を行うための方策を検討する。実習中の問題で実習機関との連絡調整協議が必要な場合は、教育実習連絡協議会で検討する。

実習運営委員会は、新型コロナウイルスの影響により実習先と個別に協議する必要性が高まったことから、教育実習委員会へ統合していない。代わりに、調整機関として教育実習合同委員会を設置し、学部との連携を強化する。(3)

実習中の問題で実習機関との連絡調整協議が必要な場合は、教育実習連絡協議会で検討する。

実習運営委員会は、新型コロナウイルスの影響により実習先と個別に協議する必要性が高まったことから、教育実習委員会へ統合していない。代わりに、調整機関として教育実習合同委員会を設置し、学部との連携を強化した。(4)

入学後から授業開始の間にオリエンテーションを対面にて実施した。(3)(4)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)

コロナウイルス対策で「自己健康管理票」の提出を求める。(3)(4)

教職大学院実習の手引き(資料14:p.707~708)

## 茨城大学教職大学院

### ウ 施設との連携体制と方法

- ・施設との連携の具体的方法, 内容

下記のとおり実習連絡協議会を設置し, 実習の目的, 実習の計画, 実施体制等に関する事, 実習成果の検討・改善及び次年度実習をめぐる課題に関する事を協議する。

- ・相互の指導者の連絡会議設置の予定等

各実習校(施設)の実習監督者と大学指導教員との連絡会議(実習連絡協議会)を設置し, 年2回開催(概ね5月と2月)実施する。

- ・大学と実習施設との緊急連絡体制

緊急事態が発生した場合は, 専攻長の監督と責任のもと, 教職大学院担当事務と各実習校(施設)の実習監督者が迅速に連絡を取ることをとする。

- ・各施設での指導者の配置状況

実習監督者, 実習連絡教員, および実習支援教員を置く。

- ・実習前, 実習中, 実習後等における施設との調整・連絡等

大学指導教員が責任をもって, 各実習校(施設)の実習連絡教員と実習にかかわる連絡・調整を行う。

### エ 単位認定等評価方法

- ・各施設での学生の評価方法

大学指導教員が中心となって, 実習内容について評価目標・評価内容・評価観点に基づいて協議し, 評価を行う。

- ・各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携

実習校の実習監督者, 実習連絡教員及び実習支援教員から意見を求める。

- ・大学における単位認定方法

実習運営委員会において承認し, 教育実習連絡協議会において報告する。

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)  
教職大学院実習の手引き(資料14:p.675~687)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)  
教職大学院実習の手引き(資料14:p.675~687)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)  
教職大学院実習の手引き(資料14:p.675~687)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)  
教職大学院実習の手引き(資料14:p.675~687)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)  
教職大学院実習の手引き(資料14:p.675~687)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)  
教職大学院実習の手引き(資料14:p.675~687)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)  
教職大学院実習の手引き(資料14:p.675~687)

設置時の計画どおりに履行予定(3)(4)

## 4 教育委員会等との調整内容の履行状況

認可（設置）時の計画	履行状況
<p>※以下の事項について、認可時に計画がない場合は、その旨を記載するとともに、現在の状況や検討状況を「履行状況」欄へ記載すること。</p> <p>ア 養成する人材像について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象とする学生層(現職教員学生と学部新卒者)と規模 記載なし</li> <li>教育委員会から推薦を受ける現職教員の派遣要件 記載なし</li> </ul> <p>イ 教育課程・教育方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践的指導力を育成する体系的で効果的なカリキュラム編成</li> <li>実践的で新しい教育方法の開発・導入の方策</li> <li>デマンド・サイドの意見・ニーズが反映される教育課程等の改善のシステム 記載なし</li> </ul> <p>ウ 履修形態について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現職教員学生が職務に従事しながら履修する場合における昼夜開講制等の配慮・工夫の方策 記載なし</li> </ul> <p>エ 教員組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理論と実践の融合が担保される教員組織の全体構成 記載なし</li> <li>実務家教員に求める教職経験の内容、資質等 記載なし</li> <li>都道府県等の教育センターの専門的職員の活用・協力 記載なし</li> <li>実務家教員の質確保にかかる継続的な採用の方策 記載なし</li> </ul> <p>オ 連携協力校の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携協力校設定の考え方</li> <li>具体的な連携協力内容</li> <li>毎年度継続して連携協力校等を確保できる方策</li> </ul>	<p>学生定員は43名である。令和3年度入学生の内訳は、学部新卒者28名、現職教員12名(茨城県教育委員会から11名、本学教育学部附属学校園から1名)となっている。(3)</p> <p>学生定員は43名である。令和4年度入学生の内訳は、学部新卒者26名、現職教員13名(茨城県教育委員会から12名、本学教育学部附属学校園から1名)となっている。(4)</p> <p>現職経験が10年程度以上で、教育委員会が推薦できる教員。(3)(4)</p> <p>教育学研究科長、専攻長およびコース主任と茨城県教育委員会、実習校がある市町村教育委員会の教育長を構成員とする教育課程連携協議会を年一回程度開催しており、その際に審議、意見聴取をしてきた。教育課程や教育方法の改善、デマンドサイドのニーズ把握については引き続き本協議会によって行っていく。令和3年度は教育課程連携協議会とし7月に開催予定である。(3)</p> <p>上記について、令和3年度は7月に開催。令和4年度も7月に開催予定である。(4)</p> <p>教育課程連携協議会細則(資料15:p.722~723)</p> <p>現職派遣教員は、茨城県では、2年次は登校日が週一日になる。したがって、基本的には1年次に多くの授業科目を履修をして、2年次は実習及び実習関連科目のみを履修している。2年次の実習については、必要に応じて、大学教員が現任校に赴き、指導を行う等の対応を行っており、今後もその予定である。(3)(4)</p> <p>本専攻は、専任教員26名のうち実務家教員は8名であり、6つのコースに研究者教員と実務家教員が配置されるようになっている。特に、教科領域コースにおいては教科の特質があるため、教科教育を専門とする兼任教員の協力が得られるようにしてある。また、今回の改組にあたり、理論と実践の往還を意識して、研究者教員も大学院で授業を担当するには、教育論文(実践報告を含む)を有していることを条件にした。(3)</p> <p>本専攻は、専任教員25名のうち実務家教員は8名であり、6つのコースに研究者教員と実務家教員が配置されるようになっている。特に、教科領域コースにおいては教科の特質があるため、教科教育を専門とする兼任教員の協力が得られるようにしてある。また、今回の改組にあたり、理論と実践の往還を意識して、研究者教員も大学院で授業を担当するには、教育論文(実践報告を含む)を有していることを条件にした。(4)</p> <p>本専攻では、概ね20年以上の教職経験を有することを基本にするが、15年以上の教職経験がある場合は教育に関わる研究論文(実践研究報告を含む)を有していることを条件にして実務家教員として採用している。(3)(4)</p> <p>茨城県教育研修センターに毎年度教職大学院の授業協力を依頼し実施している。また、同センターの研究発表大会において、本専攻院生による発表の機会が設けられているとともに、その際の運営の補助業務を行っている。(3)(4)</p> <p>茨城県教育委員会の力のもと、3年任期で校長経験者を複数推薦してもらい、推薦者から2名採用している。また、附属学校園からも3年任期で准教授を1名採用している。(3)(4)</p>

## 茨城大学教職大学院

<p>記載なし</p>	<p>学校運営コース、教育方法開発コース、児童生徒支援コースでは学生の課題に合わせた学校を実習校とするように設定してきた。また、新設の教科領域コース、養護科学コース、特別支援科学コースは各専門分野の実習の他に、教科横断的な視野の獲得のために多様な実習を準備しており、学校のみでない歴史館、水族館、開放学級を実習先として設定している。現在は、学生の交通の利便性を考え、主に実習する学校は水戸市及び東海村が多くなっている。水戸市においては水戸市総合教育研究所が、東海村においては東海村教育委員会が実習先の調整の窓口になっており、毎年度実習生についての調整を行っている。(3)(4)</p>
<p>カ 実習の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・設置の趣旨、特色、教育課程等を踏まえた、実習校の学校種、規模、立地条件に応じた実習先の考え方</li></ul> <p>記載なし</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生層(現職教員・学部新卒者)に応じた実習校の学校種、実習内容、実施年次の考え方</li></ul> <p>記載なし</p>	<p>今回の改組にあたり、多様な実習、教科横断的視点の獲得という本専攻の目的に沿って、すべての学校種、開放学級、歴史館及び水族館が実習先となっている。また、学生の利便性を考え、近隣市町村における実習を可能な限り行う。主な実習先は、本専攻全体としては、水戸市、大洗町及び東海村が中心であり、適応指導教室については、ひたちなか市、等間市及び茨城町の協力を得ている。(3)</p> <p>学部新卒者については、専門性の涵養を目的とする専門実習における校種は学生の希望に応じながら実習先を決定するが、他方、子供への深い理解、広い視野の獲得を2年を通じた養成課題として、多様な場所での実習を行っている。現職教員においては、2年目は現任教員における実習となる。(3)(4)</p>
<p>キ 教職大学院の管理運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・恒常的に教育委員会等デマンド・サイドと密接に連携する方策</li><li>・学校教育の実態や社会の変化等に柔軟に対応しうる機動的な管理運営システムの確立</li></ul> <p>記載なし</p>	<p>茨城県教育委員会等の地域の教育諸機関とは、年1回開催する教育課程連携協議会において教育課程や教職大学院の運営に関する意見交換を行うこととしている。また、茨城県教育研修センターとの連携も平成28年度の教職大学院開設以降の協力関係があり、必要時に連携を取ることが可能である。</p> <p>また、学校等のニーズに機動力をもって応えるため、教育学研究科専門委員会内に専門部会を設置している。(3)(4)</p>
<p>ク その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・FD活動への教育委員会等の協力内容</li></ul> <p>記載なし</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自己点検の評価等への取組</li></ul> <p>記載なし</p>	<p>毎年度、修了生の成果報告を中心に教育実践フォーラム(3月実施)を開催している。本フォーラムは茨城県教育委員会が共催協力となっており、県内の学校関係者の参加を得て、成果報告等についての意見交換を行いながら、FDの一環としての機能がある。また、茨城県教育研修センターの研究発表会の折の発表についても、同様な機能がある。(3)(4)</p> <p>今後、教育学研究科専門委員会専門部会からの提案に基づいて取り組んでいく。前学期終了後、授業点検FDを行う予定である。(3)</p> <p>令和3年度後期に、FDを3回実施した(4)</p>